



We do! 2009

持続可能な
社会をみつめて...

広島ガス CSR報告書

Contents

目次・発刊にあたって	1
CSRへの取り組み(基本的な考え方)	2
TOP MESSAGE	3
重点課題「都市ガスと環境」	5
重点課題「都市ガスと安全」	6
広島ガスの概要	7
広島ガスグループの概要	9
トピックス	10

● 経営分野

広島ガスグループの経営体制	11
都市ガス事業	15
広島ガスの都市ガス安定供給への取り組み	16
2009年度事業計画の概要	17
経営効率化目標について	18
業績概要(連結)	19
業績概要(単体)	21
投資情報	22

● 環境分野

クリーンエネルギー天然ガス	23
環境保全活動の基本的な考え方・しくみ	25
環境目標および実績	27
事業活動における環境負荷	29
環境会計	31
お客さま先での環境負荷の低減	33
事業活動における環境負荷の低減	35
地域環境保全への貢献	37
環境活動のあゆみ	39
データ一覧	40

● 社会分野

社会活動の考え方	41
お客さまとの関わり	43
地域社会との関わり	47
次世代教育への取り組み	49
従業員との関わり	51
情報発信・コミュニケーション	53

■本誌の記載項目のうち、関連するページおよび広島ガスホームページにも掲載されている事項を、下記のように表記しておりますのでご参照ください。

P.* 詳しくは*のページをご参照ください。

HP 詳しくは広島ガスホームページをご参照ください。
http://www.hiroshima-gas.co.jp/

1909年の創立以来、炎が創る生活の素晴らしさをお届けしています。

We do! 2009

持続可能な社会をみつめて...

■ 広島ガスCSR報告書「We do! 2009」

企業は従来から、社会に対して製品やサービスの提供という本来業務に加え、環境保全、社会貢献などのさまざまな社会的責任(CSR: Corporate Social Responsibility)を果たしてきました。近年、一つの指標としてCSRの観点から企業を評価する等、企業のCSR活動への注目は高まっています。

広島ガスでは、2000年度から当社の開示情報を環境分野と経営分野の両面から報告することを目的に本誌を発行してきました。2003年度版からは、GRIのガイドライン*を参考に新たに社会的側面も報告対象とし、2005年度版からは、社会分野を他のパートから独立して設け、「経営(経済)」「環境」「社会」の3分野で構成、標題も「CSR報告書」として発行しています。

2009年度版では、重点課題である「都市ガスと環境」(家庭用燃料電池「エネファーム」)と「都市ガスと安全」(お客さま先での安全対策)について記載しています。

■ 参考ガイドライン

- ・環境省「環境報告ガイドライン〈2007年版〉」
- ・GRI「サステナビリティ・リポーティング・ガイドライン2006」
- ※GRI: Global Reporting Initiativeの略。全世界で適用可能な報告書ガイドライン作成に取り組んでいる国際組織

■ 主な対象範囲

広島ガス株式会社の2008年4月から2009年3月までの活動(経営・環境・社会)
※一部広島ガスグループおよび2009年度上期の活動を含む

広島ガス「We do! 2009」によせて



神戸大学大学院 経営学研究科
こくぶ かつひこ
國部 克彦教授

今年度の報告書では、家庭用燃料電池システム「エネファーム」の導入に関する記事が目につきます。本業を通じた低炭素社会の実現への努力は高く評価できるものですので、事業の成功を期待しています。また、昨年度から新たに導入された「事業所におけるCO₂排出量の削減目標」については、目標を大幅に上回る成果をあげられるなど、環境面での取り組みにも進歩が見られます。社会面についても、丁寧かつ詳細に説明されており、社内外の方々の意見も掲載するなど、コミュニケーション面でも工夫されています。

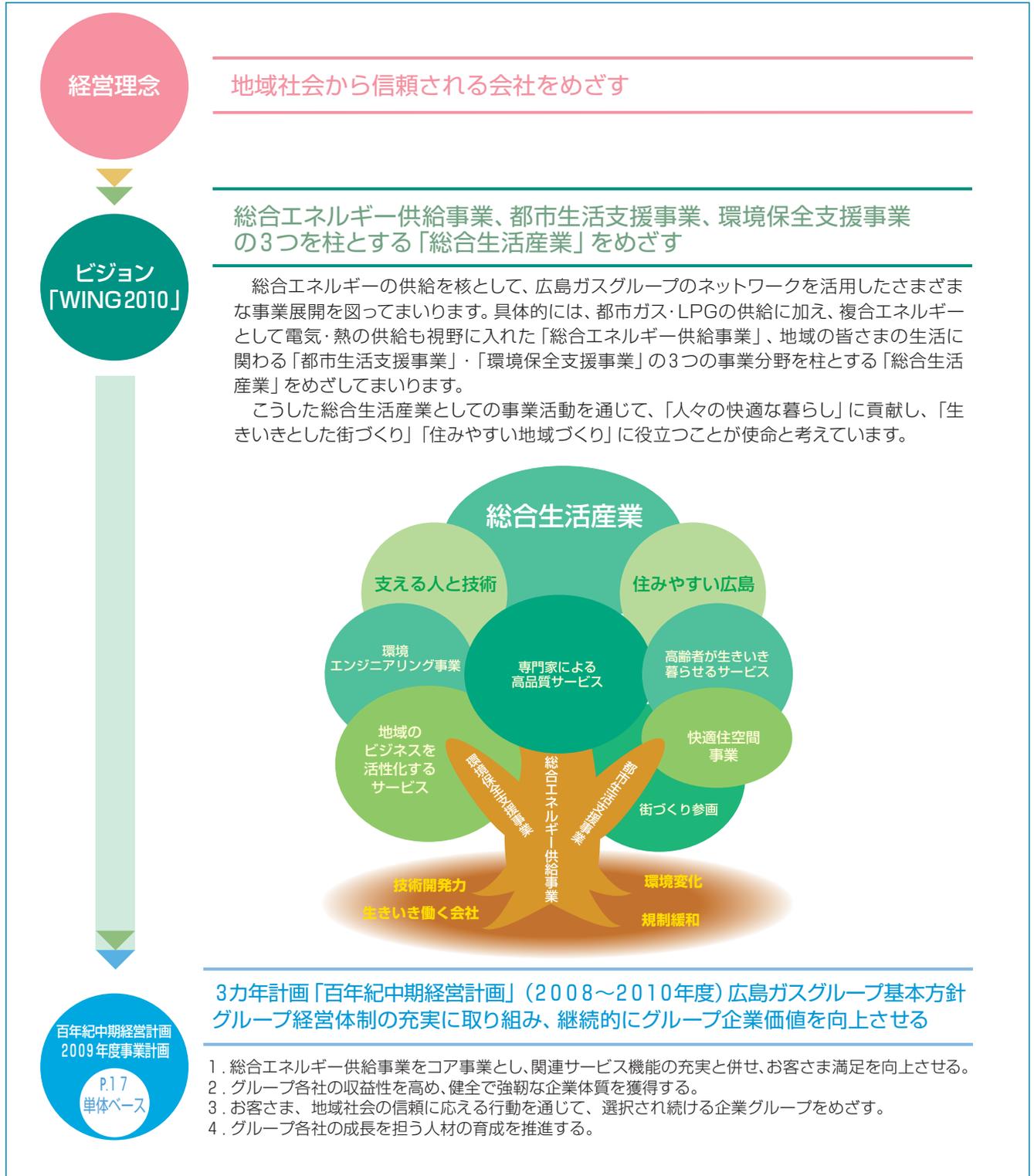
内部統制やコンプライアンス面では、「グループ内の内部統制制度を徹底的に見直す」と表明されていますので、その具体的な取り組みや成果を、今後も継続的に本報告書でも説明されることを希望します。

広島ガスは創立100周年を迎えられ、新しい100年につなげる努力を表明されています。企業の社会的責任を求める声は一層強まると思いますので、本報告書の役割はますます高まることでしょう。そのためにも本報告書を通じて、社内外との関係を強化していただきたいと思います。

CSRへの取り組み（基本的な考え方）

CSR（企業の社会的責任）には、「経営（経済）」「環境」「社会」の3つの側面があり、サステナブル（持続可能な）社会の実現のためには、企業活動としてこれらの3つの要素が必要とされています。

当社および当社グループは、「地域社会から信頼される会社をめざす」という経営理念のもと、地域の皆さまにエネルギーを安定的かつ安全にお届けし、安心して安全にお使いいただくという、極めて公益性の高い事業を行っており、その事業の遂行こそが大きな「社会的責任」であると考えています。また、クリーンエネルギー天然ガスの供給・普及拡大を基軸とした低炭素社会実現に向けた活動や、日常からのさまざまな業務や活動を通じ、お客さま・地域社会・株主の皆さまを始めとするすべてのステークホルダー（利害関係者）から信頼され、選択され続ける企業グループをめざしています。



サステナブル（持続可能な）社会の実現にむけて

TOP MESSAGE

創立100周年に向けて

当社は、1909年10月、中国地方では最初の、全国では22番目のガス事業者として、1,242件のお客さまにガスの供給を開始いたしました。そして、戦災等の幾多の苦難を乗り越え、事業拡大に向け邁進いたしました結果、お客さま件数も都市ガスで約42万件、グループ会社を通じてお届けしているLPG（液化石油ガス）も含めると合計で60万件に達し、2009年10月には創立100周年を迎えることになりました。

公益企業としての社会的責任

当社が果たすべき社会的責任とは、「地域社会から信頼される会社をめざす」という経営理念にもとづいて、公益企業として、ガスエネルギーの安定供給と保安の確保を柱とした事業活動を展開していくことであると考えております。

CSR（企業の社会的責任）には、「経営」、「環境」、「社会」の3つの側面があります。当社では、経営的側面ではエネルギーの安定的かつ安全な供給と外部環境の激しい変化に対応しうる経営計画の策定・実施を、社会的側面では社会貢献活動および的確・迅速な情報発信を、環境的側面ではクリーンエネルギー天然ガスの普及・拡大その他の事業活動を推進することによって、お客さま・地域社会・株主の皆さまを始めとするすべてのステークホルダーの皆さまから信頼され、選ばれ続ける企業グループをめざしております。

安心・安全への取り組み

お客さまに安心して安全にガスをご使用いただくため、継続して経年ガス導管の入れ替えや、安全なガス機器への取り替えを促進してまいります。

2008年より発売を開始しております「Siセンサーコンロ」は安全機能や便利機能が充実しており、引き続き普及・拡大に努めます。

災害発生時も速やかな情報収集と必要に応じた体制を取ることで、被害の拡大や二次災害を防止し、早期の復旧をめざして対応していきます。

企業存続のための「百年紀中期経営計画」

当社グループを取り巻く環境は、エネルギー間競争のさらなる激化はもちろん、LNG価格に影響を与える原油価格がやや落ち着きを取り戻したとはいえ、再び高騰する懸念がぬぐえないこと等により、一層厳しさを増すことが予想されます。

当社は、新しい100年につなげていくという意味で、2008年に3カ年計画「百年紀経営計画」（2008～2010年度）を策定しました。これにより当社グループの経営基盤を強化し、厳しい経営環境にも耐えられるよう企業価値を向上させてまいります。

低炭素社会実現への貢献

地球温暖化防止に向けた取り組みが世界中で進められる中、都市ガス業界が貢献できる方法は二つあると考えます。

一つは他の化石燃料に比べ環境負荷の小さい天然ガスを普及・拡大させることです。

二つ目は、エネルギー効率の高いガス機器を普及・拡大させることです。当社では、これまでも高効率給湯器「エコジョーズ」やエネルギー利用効率の高い「ガスコージェネレーションシステム」の導入を通じて、お客さま先（ガス供給先）CO₂削減に努めてまいりました。そして2009年、CO₂排出を大幅に抑えた家庭用燃料電池システム「エネファーム」の販売を開始いたしました。

「エネファーム」を多くの住宅で採用いただくことにより、ご家庭における低炭素社会化は一気に進むものと期待しております。

地域社会への貢献

当社は、地域のお客さまにガスエネルギーを安定的かつ安全に供給することが第一の使命と考えておりますが、当社が発展していくためには地域の発展と活性化が不可欠であるとの認識から、さまざまな地域に密着し貢献できる活動を展開しております。

広島3大プロである広島交響楽団、広島東洋カープ、サンフレッチェ広島に対する支援活動や、エネルギー環境の教育を目的とした次世代教育（「出前授業」等）、スポーツ面では当社のバドミントン実業団チームによる学校での講習会等、いろいろな場面で地域に貢献できるよう積極的な活動を推進しております。

内部統制の一層の推進

当社は、地域社会から信頼される会社をめざし、グループ全体でコンプライアンス意識の徹底や内部統制の強化を図ってまいりましたが、2009年3月に発覚した当社の子会社による不適切な取引におきましては、地域社会あるいは関係する多くの皆さまに対しまして、多大なご迷惑とご心配をおかけしました。

当社は、本件を受けまして、グループ内の内部統制制度を徹底的に見直し、二度とこのようなことが起こらないようグループ一丸となりまして、体制作りに努めてまいります。

HERE AND NOW

私は、かねてより私の造語であります「HERE AND NOW」という言葉を社内外で使ってきました。この言葉は、今という時は二度と訪れないので「この時」「この場」に全力で集中するということを意味しています。

当社グループ役職員全員がこの言葉を胸に「地域社会から信頼される会社をめざして」業務に精励いたします。



2009年9月
代表取締役 社長執行役員

深山英樹

都市ガスと環境

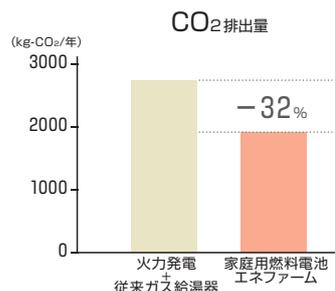
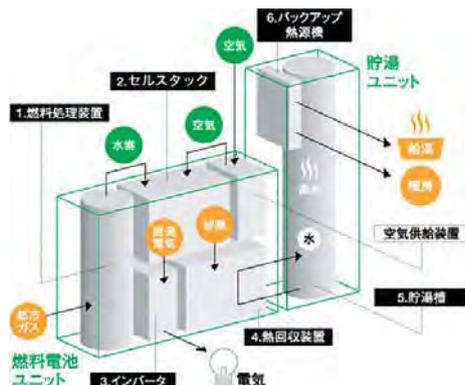
～家庭用燃料電池システム「エネファーム」の普及を通じて低炭素社会の実現に貢献～
「エネファーム」※とは

エネファームは、各家庭に送られる都市ガス（天然ガス）から取り出した水素を空気中の酸素と燃料電池（セルスタック）で化学反応させて発電し、その際に出る熱を給湯や暖房に利用するコージェネレーションシステムです。化石燃料を燃やす従来の発電方法とは異なり、化学反応で発電するので、CO₂排出量を抑え、発電効率も高い、エネルギーを無駄なく利用することができる特徴を持った新しい発電システムです。

さらに、次世代に向けたクリーンな発電システムとして注目されている、太陽光発電とエネファームを組み合わせるダブル発電システムはさらなる省エネ、省CO₂が可能となります。



※エネファーム ネーミングの由来（業界統一名称）
 「エネルギー」と「ファーム（農場）」を組み合わせた造語で、水素と酸素から電気と熱を作ること、水と大地で農作物を作ることが似ていることから、「自分のエネルギーを自分で作る」というこれからのエネルギーに対する考え方を表現したもの



※出典：平成19年度定置用燃料電池大規模実証事業報告会資料
 [CO₂排出係数/都市ガス0.05125kg-CO₂/MJ、電気：0.69kg-CO₂/kWh]

「エネファーム」の市場投入にあたり

2009年7月23日（木）「エネファーム」の披露式典を開催しました。中国経済産業局、広島県、広島市、広島消費者協会の方々をはじめ、住宅メーカー関係者など約100名の皆さまにご来場いただき、本格的な販売のスタートを切りました。



Interview

取締役 常務執行役員
 (エネルギー事業部長)
上総 英司



**お客さま先でのCO₂排出量の
 一層の削減に向けて
 (家庭部門における
 地球温暖化対策)**

広島ガスでは、これまで、他の化石燃料に比べ環境負荷の低い天然ガスの普及拡大を通じて、お客さま先でのCO₂排出削減に取り組んできました。

こうした取り組みに加え、2009年7月から「エネファーム」の市場投入を開始しました。「With Earth. With GAS. 100年目のエネルギー革命」という壮大なキャッチコピーの下、エネファームの普及拡大を通じ、地球という大きな命を守っていきたく考えています。

Comment

社団法人 広島消費者協会
 会長
中原 律子さん



エネファームの普及拡大に期待

「エネファーム」披露式典において、「エネルギーを使う家から、創る家へ」というフレーズを聞き、感銘を受けました。「エネルギーは買って使うもの」という概念から、家庭の消費エネルギーの大半を占める電気と熱を「自宅で作る」、まさに「エネルギーの地産地消」が可能となったことに先進性を感じます。

私たちは、これまで地球温暖化防止の観点から、省エネ等を主体としたエコ活動に取り組んできましたが、今注目されている2020年までのCO₂等の必要削減量の動向を踏まえると、従来の取り組みの延長では限界があります。その意味で、従来に比べCO₂排出量を約30%削減できるエネファームには、大きな可能性を感じます。

今後は、販売価格の一層の低減と先進性・環境性を絡めた啓発活動による普及拡大を図り、家庭部門の温暖化対策に貢献していただくよう期待しています。

都市ガスと安全

ガスを安全に、安定してお届けし、そしてお客さまに安全にお使いいただくことは、ガス事業者にとって事業の根幹であり、社会的な責務です。広島ガスでは、2002年4月の天然ガス転換完了以降、ガス中に一酸化炭素を含まない天然ガスをお届けするとともに、従来からお客さまに安全にガスをお使いいただくための様々な対策を講じてきましたが、近年発生したガス事故の再発防止に向け、より一層の保安対策強化に努めています。

Interview

取締役 常務執行役員
(導管事業部長/保安推進プランナー※1)

中丸 直明

お客さまに安全にガスをお使いいただくために (消費段階における保安対策)

広島ガスでは、お客さまのガス設備に対する法定保安点検の確実な遂行や、当社ホームページなどを通じた安全周知の強化に努めるとともに、安全型機器への取替促進や給排気設備の改善にも取り組んでいます。

こうした取り組みに加え、2008年4月から、家庭用ガスコンロ(卓上型一口コンロを除く)の全口に安全装置を搭載した新製品「Siセンサーコンロ※2」を投入しており、台所からの火災根絶を目指し、その普及に努めています。



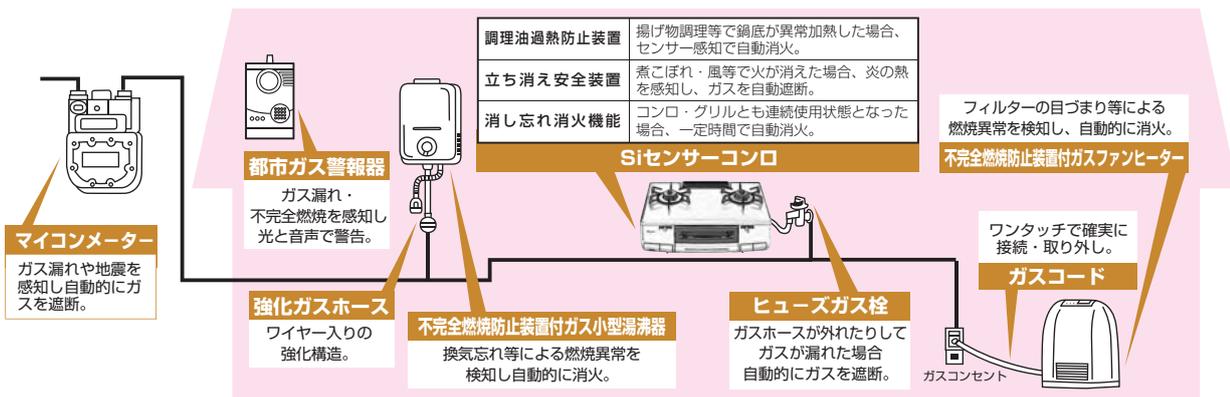
※1 保安レベルの向上を目指し、1992年3月から業界で導入された制度に基づき、各ガス事業者で定めた保安の推進役

※2 Siセンサーコンロ ネーミングの由来(ガス業界統一名称)

「S」はSafety=安心、Support=便利、Smile=笑顔を、「I」はintelligent=賢いを表しており、安心、便利、笑顔を約束する、賢いセンサーを搭載した新しいコンロという意味合い

広島ガスでの安全対策(例)

お客さま先ガス設備での安全機能(例)



ガス事故の再発防止に向けた保安対策(例)

●点検の強化

- ・ガス導管の臨時点検の実施、点検頻度の強化
- ・ガス消費機器の臨時点検(広島ガスグループ・メーカー等と連携して実施)

●啓発活動の推進

- ・お客さま等への啓発活動の推進(CM、新聞広告、ダイレクトメール、ホームページ等)

●保安対策の強化

- (中期経営計画・事業計画への反映 P.17)
- ・経年本支管の取替促進
- ・経年埋設内管(お客さま資産)対策の計画的な実施
- ・給排気設備の改善、安全型機器への取替促進 など



Siセンサーコンロ

都市ガスの製造・供給等、各段階での安全対策 P.43

広島ガスの概要

当社は、1909年（明治42年）10月30日に創立。日本のガス事業としては1872年に開業した横浜瓦斯灯会社から数えて22番目、中国地方では最初のガス事業者となりました。以来、約1世紀にわたり地域の皆さまとともに着実に歩み続けてきました。現在では、広島市を中心に県内5市とその周辺地域の42万6千件のお客さまに、化石燃料の中で最も環境負荷の小さい天然ガスをお届けしています。

都市ガス事業の概要

主原料であるLNG（液化天然ガス）は、主に海外から輸入し、工場の貯槽（タンク）に受け入れます。

その後ガス需要に応じて工場で気化した後、地中に埋設した導管（パイプライン）を通じて、お客さまのもとにお届けしています。



広島ガスの供給エリアと体制

供給エリア（広島県内5市4町）
広島市、呉市、尾道市、三原市、廿日市市、安芸郡海田町・坂町・府中町・熊野町

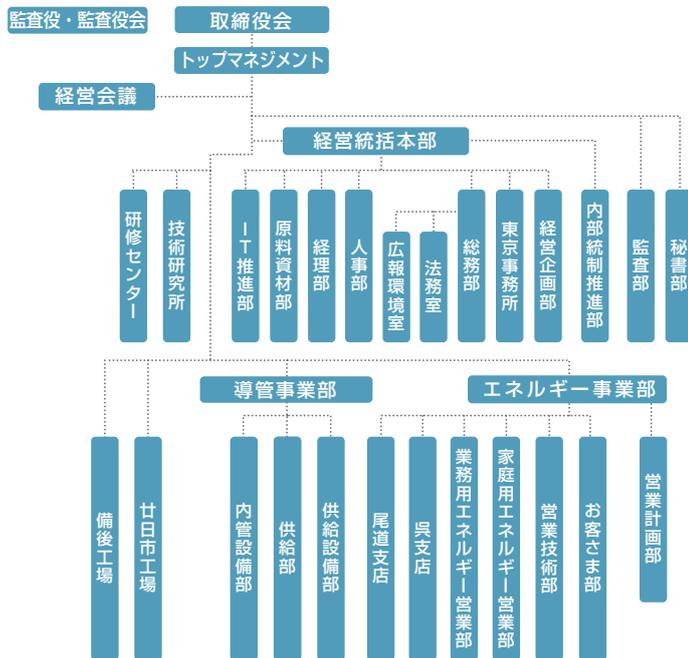
お客さま件数 42万6千件





広島ガス組織図

(2009年7月1日現在)



●本社所在地/広島市南区皆実町二丁目7-1
TEL 082-251-2151 (代表)

- 創立/1909年10月
 - 資本金/32億9千1百万円
 - 従業員数/639名
 - 事業内容
 - (1) ガス事業
 - (2) ガス器具の販売
 - (3) 液化天然ガスの販売
- (2009年3月末現在)



- LNGを専用船、専用車（ローリー）で輸送
- 廿日市工場・備後工場・東広島製造所で都市ガスを製造
- 総延長4,825kmの導管(本支管・供給管)を通じて都市ガスを供給
- 瀬戸内パイプライン(株)の設備を活用して卸供給

凡例		
供給エリア (広島地区)		ガスホルダー
供給エリア (呉地区)		ガス製造所
供給エリア (尾道・三原地区)		本社・支店
幹線 (パイプライン)		検討中幹線

広島ガスグループの概要

広島ガスグループ(当社、子会社31社および関連会社15社により構成)においては、主に都市ガス、工事・器具・LPG、その他の4つの事業を行っています。この内、都市ガス・LPG、また複合エネルギーとしての電気・熱を、ワンストップで供給できる総合エネルギー供給事業に経営資源を集中しています。

ガス事業

- ・都市ガスの製造・供給および販売
- ・他ガス事業者等への卸供給
- ・広島ガス供給エリア外でのLPGを原料とした簡易ガス事業

工事・器具事業

- ・ガス機器の販売および関連するガス設備工事の施工
- ・LPG機器の販売、LPG配管工事の施工

LPG事業

- ・LPGの販売

その他の事業

- ・管工事を中心とした建設工事
- ・保安点検業務
- ・住宅関連機器等の販売
- ・検針業務および労働者派遣業務
- ・機械器具設置工事および産業廃棄物再資源化事業
- ・お客さまサービス業務
- ・LPG充填業務
- ・容器の再検査業務
- ・情報通信事業
- ・高齢者サービス事業

事業系統図

(2009年3月末現在)

広島ガス(株)を中心に子会社・関連会社を含めて47社で構成されています。

- 連結子会社
- 持分法適用子会社
- 販売店、ショップグループ
- ← 物流・役務の流れ



主要子会社の概要

(2009年3月末現在)

- 広島ガスプロパン株式会社**
 資本金／3億円 創業／1969年3月
 売上高／12,658百万円 従業員数／82名
- 広島ガス開発株式会社**
 資本金／8千4百万円 創業／1970年4月
 売上高／7,777百万円 従業員数／89名
- 広島ガスサービス株式会社**
 資本金／2千万円 創業／1972年4月
 売上高／1,787百万円 従業員数／83名
- 広島ガスリビング株式会社**
 資本金／2千万円 創業／1975年5月
 売上高／4,909百万円 従業員数／13名
- 広島ガスマイト株式会社**
 資本金／2千万円 創業／1975年4月
 売上高／978百万円 従業員数／163名
- 広島ガステクノ株式会社**
 資本金／8千万円 創業／1998年6月
 売上高／1,700百万円 従業員数／13名
- 株式会社ラネット**
 資本金／3千万円 創業／2000年10月
 売上高／634百万円 従業員数／5名
- 株式会社ビー・スマイル**
 資本金／5千万円 創業／2001年6月
 売上高／188百万円 従業員数／30名
- 瀬戸内パイプライン株式会社**
 資本金／1億5千万円 創業／2003年5月
 売上高／692百万円 従業員数／2名

トピックス

2008年4月

関連 P.17

広島ガスグループ新3カ年計画
「百年紀中期経営計画」スタート

2008年8月

関連 P.54

リーガロイヤルホテル広島の
サマーフェスティバルで
SiセンサーコンロPRイベントとして
「夏休みクッキング体験コーナー」を開催

2008年10月

関連 1

創立99周年記念式典開催

2008年12月

関連 P.28

広島ガステクノ(株) ASR再資源化設備の
受注第1号機を長崎県長崎市池島に完成

2009年2~3月

関連 P.47

創立100周年記念プレ感謝イベントとして
広島交響楽団メンバーによる
ミニコンサートを
三原・呉・尾道の3会場で開催

2009年3月

関連 2

業務用厨房ショールーム「BLUE LABO.」
(ブルー・ラボ)オープン

2009年3月

関連 P.25

東広島製造所 ISO14001 認証取得

2009年4月

関連 3

サハリンIIプロジェクトよりLNG受入開始

2009年7月

関連 P.05

家庭用燃料電池「エネファーム」
本格販売開始

1 創立99周年記念式典開催

10月28日、創立99周年記念式典を開催し、深山社長による基調講演に続き、(株)ディア・フォロン代表取締役会長池本よ志子氏との「100周年に向けて」と題した対談が行われました。深山社長が思いや夢を熱く語り、広島ガスグループの将来のあるべき姿を社員皆で考えようと呼びかけ、2020年に向けた経営ビジョンの策定に取りかかり、創立100周年記念日に発表することが表明されました。



創立99周年記念式典



対談「100周年に向けて」

2 「BLUE LABO.」(ブルー・ラボ)オープン

当社技術研修所内に、業務用のお客さまに最新のガス厨房機器をご提案できる業務用厨房ショールーム「BLUE LABO.」がオープンしました。暑さの原因を根本から考えた「涼厨®」(低輻射型ガス厨房機器)を中心に、厨房機器だけでなく厨房空間までご提案いたします。



BLUE LABO.



比較体感「回転釜」

3 サハリンIIプロジェクトよりLNG受入開始

ロシア連邦の「サハリンIIプロジェクト」よりLNGの受入れを開始し、最大で年間21万tを調達する予定となっています。なお、サハリンからの輸送は「サンアローズ」で行っています。



プリゴドノエ基地



LNG船 サンアローズ

経営分野

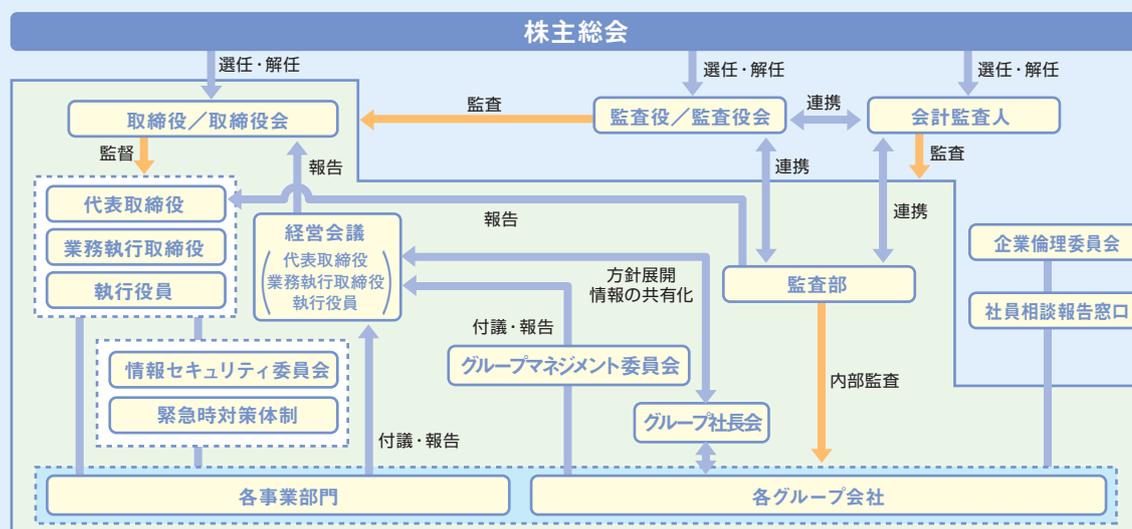
エネルギーの安定的かつ安全な供給、継続的な企業価値の向上をめざし、事業基盤の強化を図るとともに、経営の健全性・透明性の確保に努めてまいります。

広島ガスグループの経営体制

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

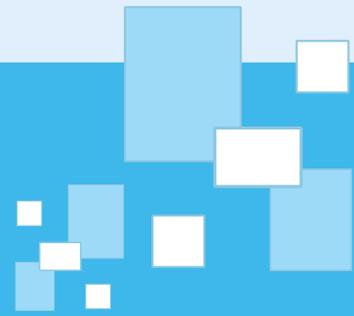
- 健全で透明な企業経営を行い、お客さま・地域社会・株主の皆さまの信頼にお応えします

当社は、「お客さま、地域社会、株主の皆さまの信頼に応える行動を通じて、選択される企業をめざす」という経営方針のもと、継続的な企業価値の向上を図るべく、経営の健全性・透明性の確保に向けた実効性あるコーポレート・ガバナンスの充実に取り組んでいます。



● 経営組織の構造

- **取締役会**
取締役会は、審議の充実を図り、意思決定過程の健全性、透明性を高めるため2009年6月より業務執行取締役を減員し、社外取締役の割合を高めており、業務執行取締役および執行役員で構成する経営会議で審議された事項の報告・説明を受け、意思決定を行っています。
- **執行役員制度**
執行の迅速化および経営と執行との分離を図るため、2004年4月より執行役員制度を導入し、より実効性の高いコーポレート・ガバナンス体制の構築に努めています。
- **監査役会**
監査役会は、監査の独立性を強化するため社外監査役2名を含む4名から構成されており、社長の直轄部門である監査部および会計監査人から定期的に報告を受け、必要に応じ協議を行い、業務執行の適法性を監査しています。
- **取締役および執行役員の任期**
取締役および執行役員の任期については、各事業年度の責任を明確にするため、1年としています。



当社は、地域の皆さまにエネルギーを安定的かつ安全にお届けし、安心して安全にお使いいただくという、公益性の高い事業を行っています。

この事業の確実な遂行こそが大きな「社会的責任」であるとの考えのもと、エネルギーの安定・安全供給に資する取り組みを展開するとともに、「お客さま」、「地域社会」、「株主の皆さま」を始めとするすべてのステークホルダーの皆さまから信頼され、選択され続ける企業をめざしています。

内部統制

● 内部統制制度の構築に関する基本方針

当社グループの事業は、都市ガス、簡易ガスおよびLPGのベストミックスによる安定的かつ安全なエネルギー供給を含む適正なサービスの提供を使命とする極めて高い公共性と社会的責任を有しているものと考えております。

この社会的使命を遂行し、お客さま、株主、投資家、従業員等のすべてのステークホルダーの信頼に応え、継続的な企業価値の向上を図るため、当社では、下記のような内部統制制度を構築しております。

取締役会は、取締役会およびその他の経営組織が内部統制において果たすべき役割と、現在構築されている内部統制の内容を確認し、今後とも絶えざる見直しによって内部統制を含むコーポレート・ガバナンスの充実に取り組んでまいります。

● 内部統制制度における各経営組織の役割

取締役会

取締役会は、内部統制の内容を決定し、業務執行を行う取締役および執行役員による内部統制の執行状況を監督します。内部統制の内容については、絶えざる見直しが必要であり、取締役会は、担当取締役、監査部および監査役からの報告を踏まえながら、内部統制の内容改善を必要に応じて決定します。

代表取締役

取締役会によって決定された内部統制を遂行し、その機能を維持する責任は、代表取締役をはじめとする業務執行を担当する取締役にあります。

代表取締役は、監査部、監査役その他の取締役ないし執行役員の意見を聴取した上で、内部統制組織の改善を取締役に提案します。

監査役会

監査役会は、取締役会による内部統制の内容決定および、代表取締役をはじめとする業務執行を担当する取締役および執行役員による内部統制の維持・遂行を監査します。

監査役会は、監査部および会計監査人から内部統制の状況について報告を受け、改善が求められる内部統制上の欠陥について代表取締役または取締役会に報告します。

内部監査部門

内部監査部門として、社長直属の監査部（8名）を設置しています。監査部は年間監査計画等に基づき、業務活動が法令、内部規程等に則り適正かつ効率的に実施されているか監査し、その結果を社長および監査役に報告するとともに、社内組織に助言・勧告を行っています。

監査役、会計監査人、および監査部の状況

監査役、会計監査人および監査部は、監査方針および監査報告等について定期的に会合を持ち、意見交換等を行うことにより、相互の連携を高めています。

内部統制

● リスク管理および法令順守のためのシステム

各種のリスクを管理し、使用人の職務執行の適法性を確保するため、以下のような体制を整備しています。

・ 自然災害等に対する対応

ガス供給の安定性・安全性を阻害するような大規模な自然災害等によるリスクに対しては、予め規程化している「地震等防災対策要領」に従い、災害・事故発生時の緊急情報連絡体制・指揮命令体制等を整備しており、定期的な想定訓練を実施し、被害拡大の最小化を図っています。

・ 記録の管理

取締役会その他の取締役の職務の執行に係る情報については、議事録、稟議書および契約書等を、その保存媒体に応じ規程等に則り、十分な注意をもって保存・管理しています。

・ 財務報告の適正確保

経理規程その他の社内規程を整備し、会計基準その他関連諸法令の遵守を徹底するとともに、当社グループを対象とする「財務報告に係る内部統制制度の方針」に基づき、体制の整備・改善に努めることにより、その適正を確保しています。

・ 企業グループの業務の適正確保

グループ各社の業務遂行については、業務遂行の基準となる規程の整備等を通じて、リスクを未然に防止するとともに、主要な連結対象会社の役員を親会社の役員が兼務することにより、各社の取締役会を通じて職務の執行状況を直接把握し、定期的開催されるグループ社長会からも主要な事項について報告を受けています。またグループ各社に対し、監査役および監査部による定期的な業務監査ならびに会計監査人による財務状況に関する監査を実施し、重要情報の報告を受け、これらの情報を通じて取締役会は、当社グループの経営方針の審議・策定を行っています。

・ 情報システムのセキュリティ確保

情報漏洩等によるリスクに対しては、「情報セキュリティポリシー」に従って、情報セキュリティ委員会を中心とした体制を構築し、個人情報の取り扱いに関する社内啓発活動をはじめ、情報漏洩事故の発生防止に努めるとともに、発生時における情報開示等のあり方についても規程化し、機動的な対応を図っています。



情報セキュリティ学習会



IDカードによるセキュリティ強化
(パソコン起動・操作、入出門)

情報セキュリティポリシー

広島ガス
情報セキュリティ理念

情報セキュリティ
規程

情報セキュリティ
細則

情報セキュリティ対策
実施計画書

実施手順
(既存規程、申請書、各種マニュアル等)

・ コンプライアンス（法令順守体制）

P.14

● 「内部統制報告制度」への対応

当社は、金融商品取引法に基づく「内部統制報告制度」に対応するために、2007年1月にプロジェクトチームを設置。金融庁の基準等に示されている内部統制の基本的枠組みに準拠して財務報告に係る内部統制を整備・運用してきました。同制度が適用開始となった2008年度については、策定した評価計画に従って、整備・運用状況の有効性の評価等を年度末時点ですべて完了しています。

コンプライアンスへの取り組み

● コンプライアンス(法令遵守)体制

定期的にコンプライアンス教育および意識調査を実施することにより、役職員にコンプライアンス意識を根付かせ、法令違反を許さない企業風土を醸成しています。

また、2004年4月に、社長および2名の社外弁護士からなる「企業倫理委員会」を設置し、コンプライアンス施策の決定ならびに制度の運用状況の把握と是正策について協議する体制を整備するとともに、当社グループの社員が、直接、企業倫理委員会の委員等に相談・報告することができる「社員相談報告制度」を導入し、自浄機能の強化を図っています。

なお、本制度発足に先立ち「広島ガスグループ社員行動指針」を作成し、全社員に小冊子化したものを配布し社員の意識の啓発に努めています。

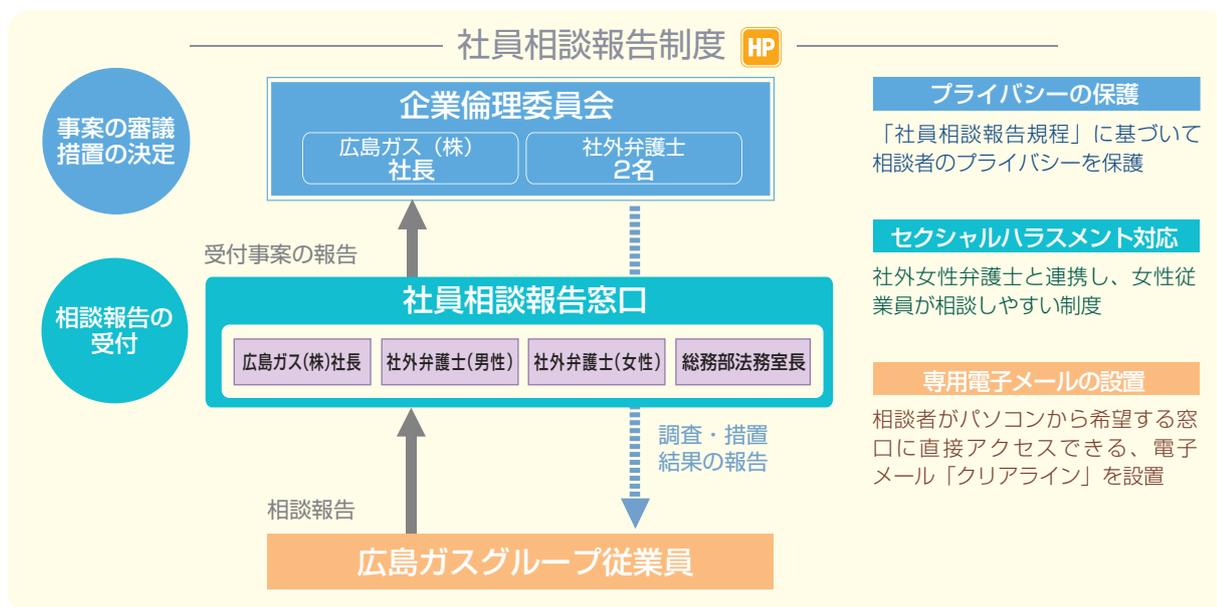
広島ガスグループ社員行動指針(概要)

倫理行動原則

- 地域社会との信頼構築
- 法令や社会的規範を順守し、良き企業市民として行動
- お互いの人格・人権を尊重

行動基準の要点

- お客さまへの誠意ある対応
- 事故・苦情への迅速な対応と再発防止
- 法令および社内規程等の順守
- 節度ある言動に努める
- 社会人としての社会的ルールへの順守



今後の取り組み(不適切な事象の改善措置)

HP

2009年3月に発覚した当社会社における不適切な取引を受け、今後二度と本件のような事象が発生しないように、当社グループ全役職員が一丸となり、再発防止策を確実に実行し、信頼回復に努めてまいります。

なお、再発防止策の確実な実行に向けて、2009年5月に内部統制推進部を新たに設置しています。

● 公表経緯

2009年

- ・ 3/19：当社会社における不適切な取引について
- ・ 4/24：外部調査委員会による調査結果について
- ・ 5/20：連結業績への影響額(概算)ならびに再発防止策について
- ・ 8/13：①過年度の決算短信ならびに有価証券報告書等の一部訂正について
 ②東京証券取引所からの「改善報告書」提出請求について
- ・ 8/26：東京証券取引所への「改善報告書」の提出について

● 改善措置

1. 不適切な事象をさせない仕組み(意識付け)
 - (1) リスク管理・コンプライアンス意識醸成のための教育の継続
 - ・ 役職員の集合教育(研修、講演会)
 - ・ 管理者による部内教育(部内コミュニケーション)
2. 不適切な事象ができない仕組み
 - (1) 規程類および業務フローの標準化
 - (2) 内部牽制機能の強化
3. 不適切な事象を監視、発見する仕組み
 - (1) グループマネジメント委員会の設置
 - (2) 監査部の増員

都市ガス事業

都市ガス事業者

都市ガス事業者は全国に211事業者(2009年4月1日時点)が点在しています。この業界の特性から、全国8ブロック(北海道・東北・関東中央・東海北陸・近畿・中国・四国・九州)に(社)日本ガス協会*の「地方部会」が設置され、地方独自の活動も含めたさまざまな事業を行っています。

(社)日本ガス協会 中国部会・四国部会に所属する14事業者では、協力体制のもと、都市ガスの普及拡大に向けた取り組みを推進しています。

※(社)日本ガス協会
都市ガス事業の健全な発展を図るとともに、産業の振興と文化の発展に寄与することを目的とする都市ガス事業者の団体。

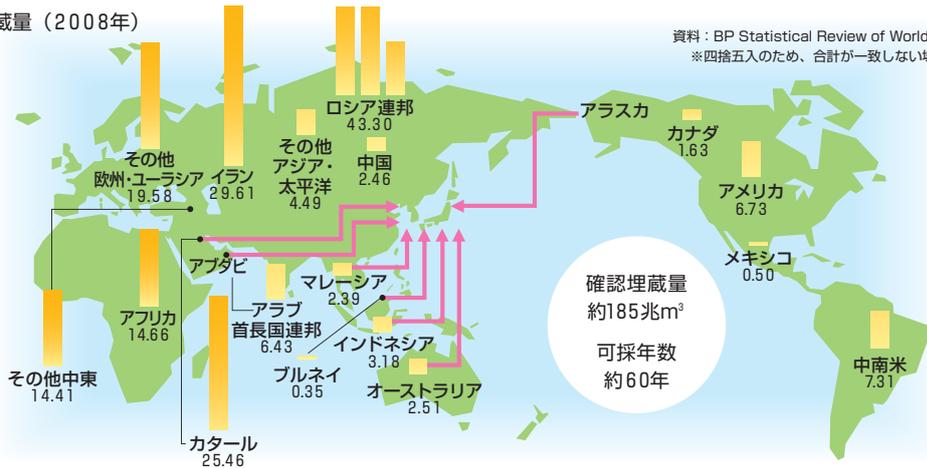
都市ガスの原料

都市ガスの原料には、LNG(液化天然ガス)と国産天然ガスの天然ガス系原料と、LPG(液化石油ガス)などの石油系原料があります。現在では都市ガスの原料構成の9割以上が天然ガス系となっています。天然ガスは世界各地に豊富に存在し、可採年数は約60年と言われ、中東地域以外からも確保が可能なエネルギーです。わが国の都市ガス事業者は、主に環太平洋諸国から長期契約に基づいてLNGを輸入し、安定供給に努めています。

また、国の基幹エネルギーとして天然ガスの一層の普及が求められ、「IGF21計画*」により全国的に高カロリーガスへの統合が進められており、2010年に完了予定です。

※IGF21計画
1990年1月に通商産業省(現経済産業省)資源エネルギー庁から提案された「INTEGRATED GAS FAMILY 21計画」を受けて、日本ガス協会および日本ガス石油機器工業会が、2010年を目途に、都市ガスを天然ガスを中心とした高カロリーガス(13A、12A)へ統一することを目的に策定した計画。

■天然ガス確認埋蔵量(2008年)
(単位:兆m³)



中国・四国地区における天然ガス転換 P.38

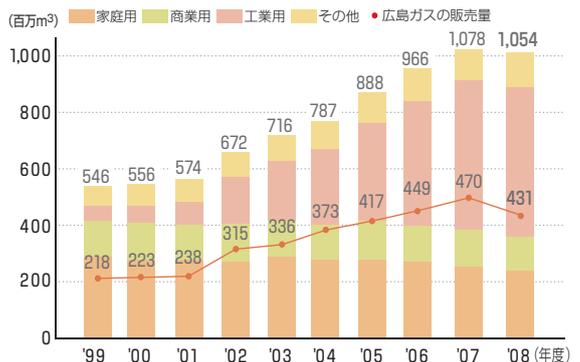
天然ガスなどへの高カロリーガスへの熱量変更作業は、IGF21計画に基づき、全国各地で進められています。当社は2002年4月に天然ガス転換を終了しましたが、引き続き、中国・四国地区では熱量変更完了をめざし、事業者間で連携して取り組んでいます。また、当社は連結子会社の瀬戸内パイプライン(株)の設備を活用し、2007年1月から福山ガス(株)へ卸供給を開始。自社のみならず、他地域での天然ガスの普及促進にも取り組んでいます。

中国・四国地区の都市ガス販売量

中国・四国地区のガス販売量が、全国に占める割合は約3.4%ですが、工業用需要の拡大により販売量を伸ばしてきました。また、当社の2008年度のガス販売量は全国ガス事業者の中では8番目、中国・四国地区ではトップで約41%を占めています。

■過去10年間の中国・四国地区のガス販売量の推移

※広島ガスにおける卸供給等は含まない。



広島ガスの都市ガス安定供給への取り組み

都市ガスは、電気・水道と並ぶ地域を支える重要なライフラインの一つ。その都市ガスを安定的に供給することが、広島ガスの大きな「社会的責任」であると考えています。そのため、原料であるLNGの調達・輸送から都市ガスの製造・供給に至るまで、国際情勢、エネルギー市場の動向および業界の動き等を注視しながら、さまざまな施策を講じています。

※各段階での安全対策の取り組み P.43

LNG安定調達に向けた取り組み

● LNG調達先の多様化

ここ数年、世界的規模で天然ガス需要は拡大していますが、当社においても都市ガスの需要増に対応するため、従来からの調達先であるインドネシアに加え、マレーシアからのLNG調達を2006年1月より開始しました。マレーシアとは、2005年度から8年間の契約を締結しています。

また、2009年4月よりロシア連邦の「サハリンIIプロジェクト」からの受け入れも開始しています。「サハリンIIプロジェクト」は、LNGの生産規模が年間960万tという大規模なプロジェクトで、当社では2006年4月に売買契約書に調印しました。この契約により、最大で年間21万tのLNGを調達する予定です。

この結果、LNG調達先が多様化でき、より一層の供給安定性向上が期待できます。

● LNG調達コストの低減

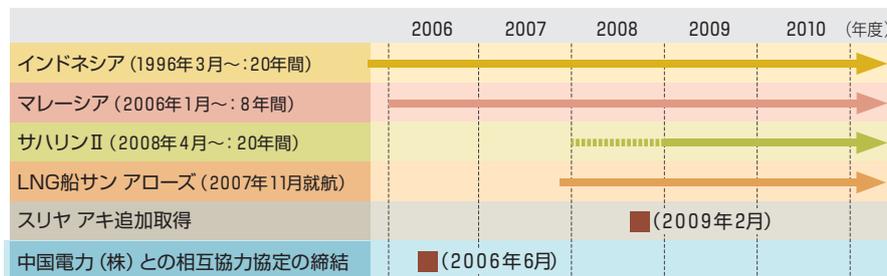
当社のLNG輸送は、インドネシアからは「スリヤ アキ」「スリヤ サツマ」、サハリンからは「サン アローズ」で行っています。2004年12月には「スリヤ アキ」の一部(約33%)を買い取り、さらに2009年2月には75%まで追加取得しました。サハリンは、日本から近距離で、比較的短期間に輸送できることから、効率的な原料調達が可能になります。本航路に就航する「サン アローズ」は、(株)商船三井と当社が共同保有するF O B船であり、買主の用船コントロールを可能にしたLNG船です。

これによって、より安定したLNG供給体制の確立と、将来にわたるLNG調達コストの低減が期待されています。

● 中国電力(株)との相互協力協定

地域における効率的かつ安定的な天然ガス普及を図るため、相互のLNGの調達・供給ならびに天然ガスの利用技術開発の分野において申し出がなされた場合、互いの協力を目的とする、相互協力協定を締結しています。

■ 広島ガスのLNG安定調達に向けた取り組み



LNG船 スリヤ アキ

製造・供給設備の拡充

HP

● 水島ステーションおよび導管を活用した卸供給の実施 (瀬戸内パイプライン(株))

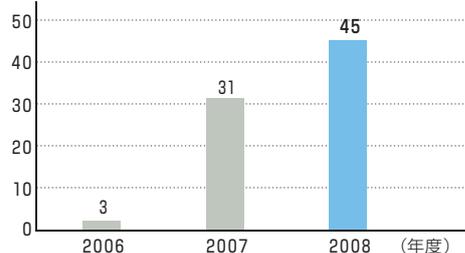
当社の連結子会社である瀬戸内パイプライン(株)の設備で、水島LNG基地から天然ガスを受け入れ、熱量調整等を行う設備「水島ステーション」および水島-福山間の導管(約40km)が2006年11月に完成。広島県東部等に天然ガスを供給する体制を整備し、2007年1月から当社が福山ガス(株)に卸供給を行っています。



水島ステーション(瀬戸内パイプライン(株))

■ 卸供給等ガス販売量

(百万m³)



※卸供給等は他ガス事業者への供給分。

※46.04655 MJ/m³換算

2009年度事業計画の概要 (中期経営計画含む)

HP

◆当社を取り巻く状況

2008年に発生した百年に一度とも言われる金融危機による世界同時不況が続く中、わが国においても景気が急速に後退し、先行き不透明な状況が続いております。

また、当社の主原料でありますLNG価格に影響を与える原油価格は、年初より上昇傾向にあり、今後の情勢次第ではさらなる高騰も懸念されるところです。

◆「百年紀中期経営計画」の達成に努めます

2009年の創立100周年を次の100年につなげるべく、2008年度より3カ年計画「百年紀中期経営計画」を策定しております。2009年度は2年目を迎えますが、引き続き、当グループの経営基盤の強化と経営体制の充実を図るとともに、継続的なグループ企業価値の向上に努めます。

経営方針

経営環境変化に的確に対応し、企業価値を向上させる

経営方針 1

お客さま満足向上のために最適なエネルギー・サービスの提供と一層の安全、安心の実現を目指していく

【取組内容】

- 家庭用市場への経営資源の重点配分による営業活動の充実
- お客さま接点業務の充実等によるサービス品質の向上
- 供給、消費段階における保安対策の計画的な実施
- 営業・サービス・保安活動推進のための基盤整備・支援活動の充実

経営方針 2

更なる経営効率化を推進し、収益性を高める

【取組内容】

- 原料対策、要員削減計画、設備投資抑制を実施
- グループ業務の選択・再構築（機能整理）と、グループを含めた要員再配置を実施
- 投資・経費計画の修正を機動的に実施

経営方針 3

お客さま・地域社会・株主の皆さまの信頼にお応えする

【取組内容】

- コンプライアンスの確実な実行と、情報開示による経営の透明性・財務報告の信頼性の確保
- 地域との共生、同業他社・国家プロジェクト・地域の産官学等との連携
- グループで連携し低炭素社会の実現を含めた環境保全活動の推進

経営方針 4

従業員の意欲、能力を向上させる人材活性化策を推進する

【取組内容】

- 人材育成・開発、モチベーション向上策等による人材・組織の活性化
- ワークライフバランスの推進
- 人権啓発活動の推進

ガス需給計画 (2009～2011年度)

(46.04655MJ/m³)

	実績		計画			3年間平均伸び率	
	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度			
お客さま件数 (年度末)	426千件	426千件	426千件	426千件	0.0%		
ガス販売量 (百万m ³)	家庭用	104	105	105	105	0.5%	
	業務用	商業用	55	55	55	55	△0.7%
		工業用	237	235	236	236	0.6%
		その他	34	36	38	39	3.3%
	合計 (卸供給等を除く)	431	432	435	437	0.6%	
	卸供給等	45	56	61	61	10.0%	
総合計	477	488	496	498	1.6%		

※端数処理の関係上、各項目の合計値は一致しない場合があります ※卸供給等は他ガス事業者への供給分

● 家庭用

給湯暖房システムやファンヒーター等の暖房器の拡販およびお得な家庭用選択約款の普及をはかるとともに、お客さまへの提案活動を強化し、家庭用販売量を維持してまいります。また、省エネルギー・環境負荷軽減の両面で優れたシステム・家庭用燃料電池（エネファーム）についても、2009年度の販売開始とともに普及促進に取り組んでまいります。

■ 家庭用重点機器販売、家庭用選択約款契約目標 (2009年度)

給湯暖房システム(熱源機ベース)	3,540台
暖房器	4,730台
家庭用選択約款 (お得な料金メニュー)	5,230契約

● 業務用

景気減速の影響により業務用市場はかつてないほどの厳しい環境下にあります。

しかし一方では、お客さまの地球環境問題への意識の高まりから、省エネ・省資源面で優れた燃料である天然ガスへの評価は高く、省エネ・省資源化が実現できるガスシステムの提案を継続します。

さらに、お客さまの多様化するニーズ（保安、設計診断、メンテナンス、ファイナンス他）に対しても積極的な対応を継続し、お客さまとの信頼関係の構築に努めます。

設備投資計画の概要 (2009～2011年度)

P. 6

■ 設備投資計画

(単位：億円)

	実績	計画			
	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	3年間合計
製造設備	24	1	1	1	3
供給設備	28	28	28	28	84
業務設備等	3	2	3	1	6
合計	55	31	32	30	93

※端数処理の関係上、各項目の合計値は一致しない場合があります

環境特性・省エネルギー性に優れた天然ガスの市場拡大に対応し、安定供給体制を確保するため、製造設備および供給設備の増強・改修・入替など、製造・供給インフラの整備を計画的・効率的に行います。

また、2008年度には、2004年度に一部取得したLNG船「スリヤ アキ」の追加取得を実施しました。

■ 2009年度の主な設備投資

・供給設備：経年本支管対策の強化等

保安対策の強化

P. 6

お客さまに安心してガスをご利用いただくために、ガス事故防止に向けた保安対策を継続します。

項目	具体的内容
(1) 経年本支管対策の強化	<ul style="list-style-type: none"> ●ねずみ錆鉄管：取替を2015年(日本ガス協会目標)までに実施 ●白ガス管：経年劣化が高いものから計画的に取替え } 対策費約10億円/年
(2) 経年埋設内管(お客さま資産)対策の計画的な実施	●鉄筋系集合建物等について、2015年(日本ガス協会目標)までの改修をめざし改善交渉を推進
(3) 給排気設備の改善、安全型機器への取替促進	●消費段階での事故防止の観点より、法定点検・安全周知の強化に努めるとともに、給排気設備の改善および安全型機器への取替活動を推進

経営効率化目標について

HP

● 経営効率化目標について

当社は、2006年度から2008年度までの3カ年中期経営計画の策定時に、経営効率化目標を設定しました。この経営効率化目標は、原油価格の高止まりが継続するなか、2006

年度以降さらなるコスト削減のための方策およびお客さまに安心してガスをご利用いただくための保安・サービスの向上のための施策等を織り込んだものです。

● 設備投資の抑制

■ 目標：各年度の内部調達額以内

	2006年度	2007年度	2008年度
設備投資実績	48億円	36億円	55億円
目標(内部調達額)	73億円以内	74億円以内	61億円以内

※内部調達額＝当期純利益＋減価償却費－配当

● 諸経費の抑制

■ 目標：102億円(2005年度実績)以下

	2006年度	2007年度	2008年度
諸経費実績	100億円	97億円	108億円*
目標	102億円以下		

※卸供給(目標設定以降に事業開始)にかかる経費の増加等

● 保安・サービスの向上

項目	取り組み内容(2006年度～2008年度)
(1) 保安施策の推進	<ul style="list-style-type: none"> ●経年ガス導管(本支管)の計画的な改修の継続実施 ●お客さま先の経年埋設内管(白ガス管)の取替・改善促進活動を推進 ●給排気設備の改善・安全型機器への取替活動を推進
(2) お客さまサービスの向上	<ul style="list-style-type: none"> ●機器リース制度、クレジット払いの開始 ●コールセンターの本格稼働により、当社全エリアの受付窓口を一本化し、ワンストップ対応を実現 ●モバイル機器の導入による開閉栓・修理業務の作業効率化 ●新料金周知等のお客さま訪問活動の拡充と、お客さまニーズに応じた家庭用選択約款の普及促進*1
(3) 環境問題への取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ●環境行動指針・環境目標に沿った活動の展開 ●環境負荷低減に資する天然ガスの普及拡大、ガスコージェネレーションシステム等の高効率機器や天然ガス自動車の普及促進

*1 目標：家庭用選択約款の新規契約を3,700件/年以上、普及率を毎年度1%以上向上

	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度
増加件数(件)	—	7,524	5,774	5,762
家庭用選択約款普及率	7.1%	9.1%	10.8%	12.5%

◆ 新たな経営効率化目標

● 要員の効率化

■ 目標：従業員数については2008年度末(639名)を下回る水準を目指す

● 設備投資の抑制

■ 目標：設備投資額を各年度の内部調達額以内に抑制する
※内部調達額＝当期純利益＋減価償却費－配当

● 保安・サービスの向上

(1) 保安施策の推進 (2) お客さまサービスの向上 (3) 環境問題への取り組み

業績概要 (連結)



売上高増加等による増収、経常増益、29期ぶりの純損失

当期の売上高は、原料費調整制度に基づくガス売上高の増加等により、前期に比べ5,058百万円増加(+6.5%)の82,965百万円となりました。

利益につきましては、ガス売上高の増加等により、経常利益が前期に比べ1,175百万円増加(+69.8%)の2,860

百万円となりました。また、当期純利益は子会社による不適切な取引にともなう特別損失を計上した結果、前期に比べ2,512百万円減少の1,907百万円の当期純損失となりました。

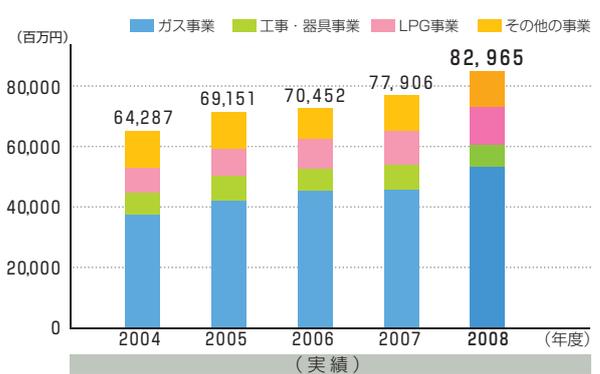
※平成21年8月13日発表の数値に基づいて記載してあります。

収益性/成長性

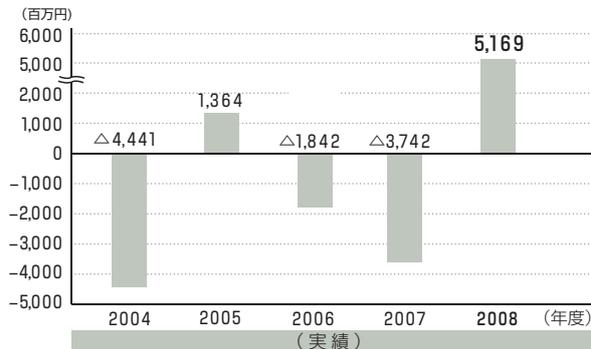
売上高および利益の推移



事業の種類別売上高の推移

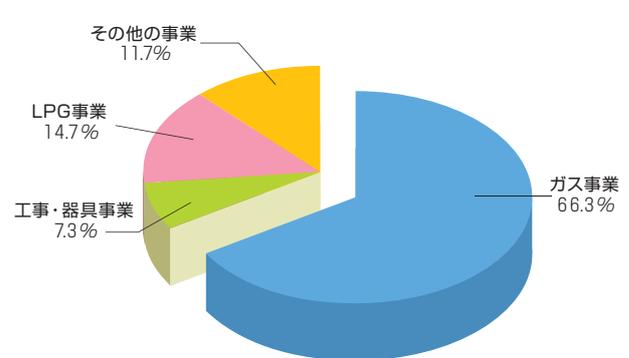


フリーキャッシュフローの推移



フリーキャッシュフロー＝営業活動によるキャッシュフロー－(有形固定資産取得による支出額－無形固定資産取得による支出額)

事業の種類別売上高構成比(2008年度)



事業の種類別セグメント情報(2008年度)

	(単位:百万円)		
	売上高	営業費用	営業利益
ガス事業※	55,002 (+10.5%)	50,004 (+7.6%)	4,998 (+51.8%)
工事・器具事業※	6,492 (△6.0%)	6,234 (△8.5%)	257 (+196.4%)
LPG事業※	12,275 (+3.9%)	11,530 (+5.7%)	744 (△18.1%)
その他の事業※	12,475 (+2.3%)	11,497 (+0.7%)	977 (+25.8%)
消去又は全社	△3,280 (+17.4%)	1,410 (+43.0%)	△4,690 (+24.1%)
連結	82,965 (+6.5%)	80,678 (+5.3%)	2,287 (+77.8%)

※各セグメントの数値は百万円未満を切り捨て、従って各項目の総額がセグメント毎の合計と一致しないことがあります。

※〔 〕内は対前年比です。

収益性/成長性

7期連続の増収、29期ぶりの純損失

当期の売上高につきましては、主力のガス事業において、冬季の水温が高めに推移したことや景気後退にともなう消費マインドの冷え込みなどにより、ガス販売量の減少はありましたが、原料費調整制度に基づく料金単価調整等によりまして、前期に比べ6.5%増加しました(7期連続)。

また、経常利益は、本ページ上部に記載のとおりガス売上高の増加等により増益となりましたが、子会社における不適切な取引にともなう特別損失を計上した結果、29期ぶりの当期純損失となりました。

各区分に属する主要な製品の名称 P.9

※ガス事業/ガス導管を通じて供給する都市ガスおよび簡易ガス・他ガス事業者等への卸供給

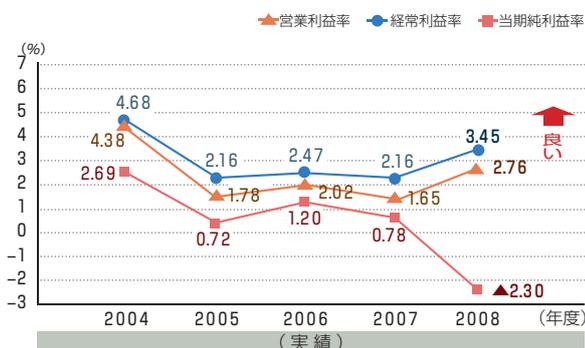
※工事・器具事業/工事：お客さまガス設備 器具：給湯器、ガスコンロ等ガス器具

※LPG事業/ボタンおよびプロパン

※その他の事業/ガスボンベ充填、プロパン容器検査、検針・保安業務受託、労働者派遣業務、建設工事、住宅関連機器他

効率性

営業利益率・経常利益率・当期純利益率の推移



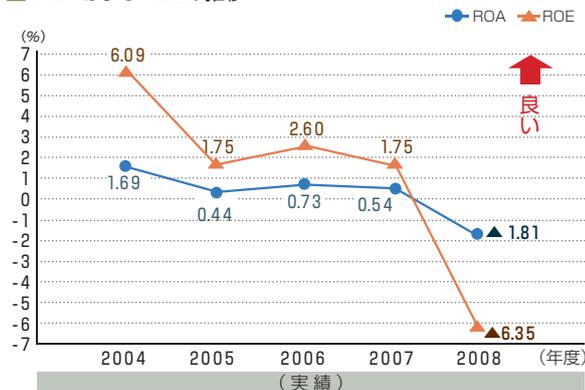
営業利益率 (%) = 営業利益 ÷ 売上高 × 100
 経常利益率 (%) = 経常利益 ÷ 売上高 × 100
 当期純利益率 (%) = 当期純利益 ÷ 売上高 × 100

総資本回転率の推移



総資本回転率 = 売上高 ÷ 総資産 (期中平均)

ROAおよびROEの推移



ROA = 当期純利益 ÷ 総資産 (期中平均) × 100 (%)
 ROE = 当期純利益 ÷ 自己資本 (期中平均) × 100 (%)

効率性

ROE 5%をめざします

当社は、他燃料との競争力を高め収益力向上を図り、企業価値の増大を図るため経営指標として「ROE」(自己資本当期純利益率)を設定、目標を5%にしています。当期は、子会社による不適切な取引にともなう特別損失を計上した結果、29期ぶりの当期純損失となり、ROEは前期に比べ8.10ポイント減少の△6.35%となりました。2009年度以降につきましては、再発防止に全グループ会社一丸となって取り組み、さらに経営効率化を推進し、収益性を高めることによってROE 5%以上をめざしています。

健全性

自己資本比率・自己資本配当率の推移



自己資本比率 (%) = 自己資本 ÷ 総資産 × 100
 自己資本配当率 (%) = 年間配当総額 ÷ 自己資本 × 100

流動比率の推移



流動比率 (%) = 流動資産 ÷ 流動負債

インタレスト・カバレッジ・レシオの推移



インタレスト・カバレッジ・レシオ = キャッシュフロー ÷ 利払い
 (金融費用の支払い能力における安全性を示す指標)

健全性

効率的な投資、資産圧縮による財務体質の健全化に努めます

当期末の総資産は、原油価格の下落にともない、デリバティブ債権およびたな卸資産が減少したこと等により、前期末に比べ11,820百万円減少の99,623百万円となりました。

負債につきましては、有利子負債の減少等により、前期末に比べ4,817百万円減少の71,631百万円となりました。

純資産につきましては、繰延ヘッジ損益の減少や当期純損失の計上等により、前期末に比べ7,003百万円減少の27,991百万円となりました。

業績概要 (単体)



10期連続の増収、2期ぶり経常増益、29期ぶりの純損失

当期の売上高は、景気後退の影響でガス販売量は減少しましたが、原料費調整制度適用に伴う販売単価の上昇により、前期に比べ5,122百万円(+9.4%)の59,564百万円となりました。

その結果、経常利益は前期に比べ1,125百万円増加

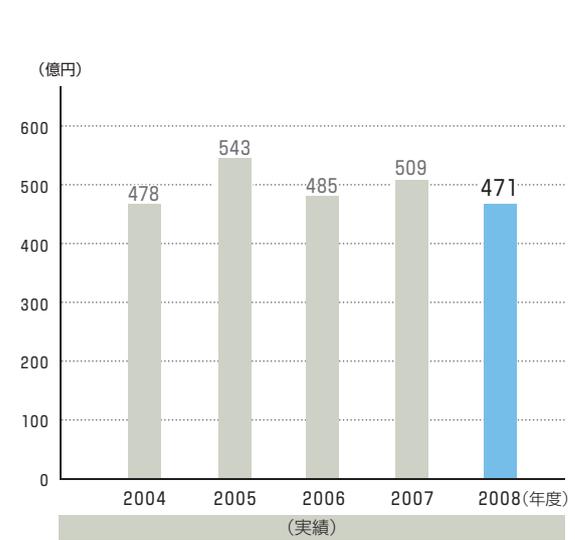
(+92.2%)の2,345百万円となりました。また、当期純利益は、子会社における不適切な取引にともなう特別損失を計上した結果、前期に比べ1,035百万円減少の401百万円の当期純損失となりました。

決算概要

■ 総売上高および利益の推移



■ 有利子負債残高の推移



事業概要

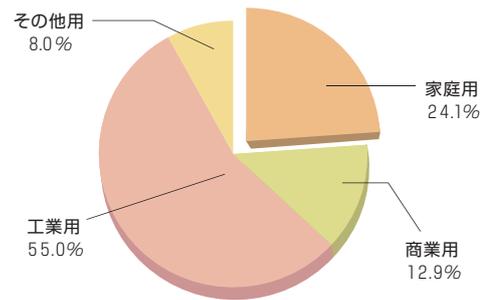
■ ガス販売量の推移と平均伸び率

(単位：千m³、46.04655MJ/m³換算)

	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	平均伸び率
家庭用	106,903	109,508	109,732	107,391	104,038	△ 0.7%
商業用	58,547	60,683	60,393	60,894	55,857	△ 1.2%
工業用	174,176	210,757	242,579	264,963	237,495	8.1%
その他用	34,349	36,954	36,646	37,401	34,537	0.1%
計	373,978	417,903	449,352	470,651	431,928	3.7%
卸供給等	-	-	3,767	31,102	45,728	47.0%
総計	373,978	417,903	453,119	501,753	477,656	6.3%

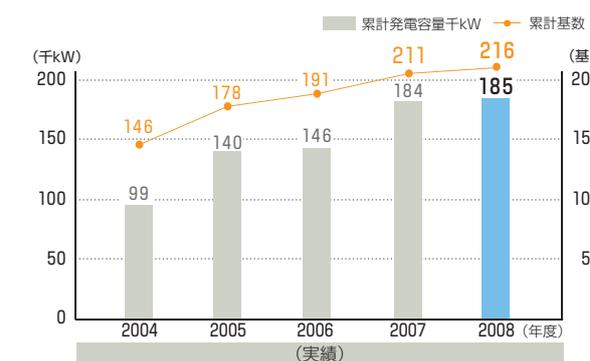
※端数処理の関係上、各項目の合計値は一致しない場合があります。

■ 事業の種類別売上高構成比(2008年度)

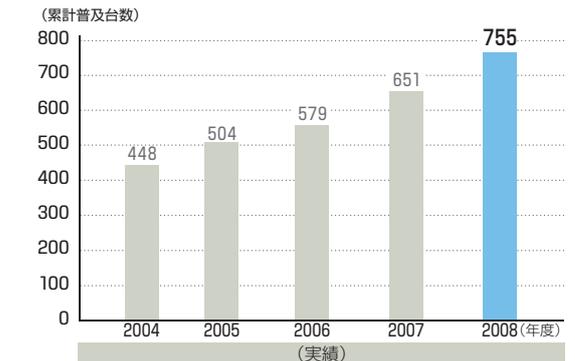


*卸供給等は含めずに算出

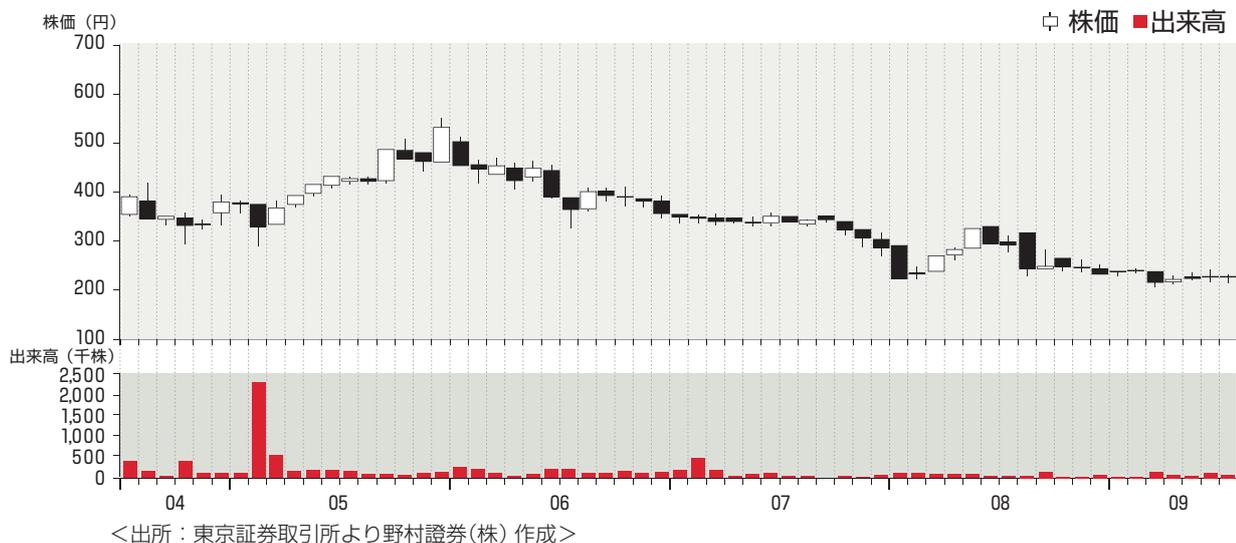
■ ガスコージェネレーションシステム導入の推移(業務用)



■ 天然ガス自動車の累計普及台数(広島ガス供給エリア内)



■ 株価・出来高の推移 9535 広島ガス



配当金について

当期(2008年度)の期末配当金につきましては、1株あたり2円50銭の普通配当を実施し、中間配当金と合わせて5円の年間配当を実施しました。

2009年度につきましても、安定配当維持を基本方針として、1株あたり年間5円の普通配当を継続する予定です。

関連株式指標

■ 1株当たりの指標(連結)の推移

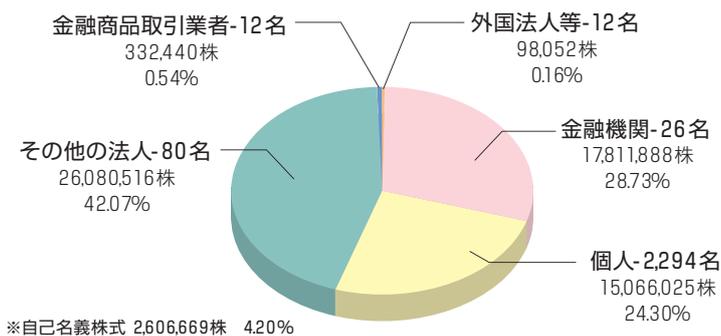
(単位：円)

	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度
1株当たり当期純利益	2753	730	1454	1021	▲3240
1株当たりキャッシュフロー	152.35	134.33	135.89	141.30	95.92
1株当たり純資産	492.38	505.24	604.32	570.95	449.77
1株当たり配当金	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00
配当性向	18.2%	68.5%	34.4%	49.0%	—

■ 大株主の状況(2009年3月末現在)

	氏名または名称	持株数(千株)	出資比率(%)
1	岩谷産業株式会社	7,607	12.80
2	明治安田生命保険相互会社	3,855	6.49
3	三菱商事株式会社	2,991	5.03
4	日本生命保険相互会社	2,970	5.00
5	株式会社広島銀行	2,840	4.78
6	第一生命保険相互会社	2,540	4.27
7	米田 正幸	1,952	3.28
8	広島電鉄株式会社	1,860	3.13
9	西部瓦斯株式会社	1,420	2.39
10	双日株式会社	1,350	2.27

■ 株主の状況



※持株数は千株未満切り捨て
出資比率は自己株式を控除して計算し、小数第2位未満切り捨て

環境分野

低炭素社会構築を目指し
クリーンエネルギー天然ガスを基軸として
環境保全を推進してまいります。

クリーンエネルギー天然ガス

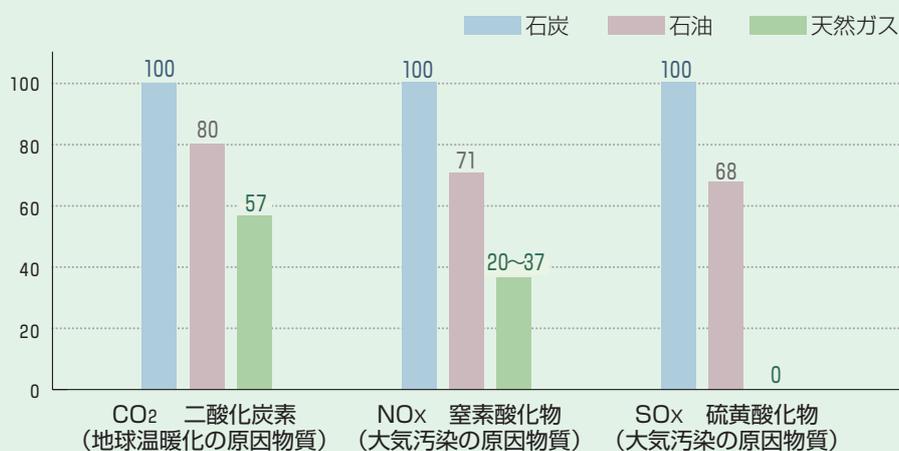
広島ガスは、天然ガスを主原料に都市ガスを製造しています。
この天然ガスは、インドネシア、マレーシアおよびサハリンで採掘・精製・液化されLNG（液化天然ガス）として専用タンカーにより受け入れ基地である廿日市工場へ運ばれます。
このLNGを原料に都市ガスを製造し、導管を通じてお客さまへお届けし、ご使用いただいています。

新時代の理想的な 都市エネルギー「天然ガス」

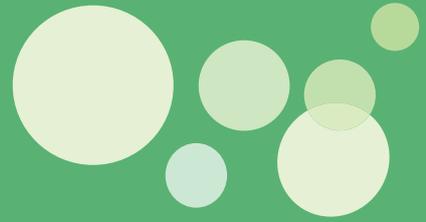
地球にやさしく安定供給できる天然ガスを提供しています。

天然ガスは、炭素含有量の少ないメタンが主成分で、化石燃料のなかで燃焼時の地球温暖化や大気汚染の原因物質の発生量が最も少ないクリーンエネルギーです。

◆ 天然ガスのクリーン性 石炭を100とした場合の発生量比較（燃焼時）



<資料：Natural Gas Prospects (2010) 1986 IEA (国際エネルギー機関)
：火力発電所大気影響評価技術実証 調査報告書 1990.3 エネルギー総合工学研究所>



2005年2月16日に正式発効した京都議定書。

2008年度からは、わが国の削減目標6%達成に向けた約束期間に入りました。

京都議定書の意義は、地球温暖化を防止し、環境と共存しながら持続的に発展可能な社会を築くことにあります。そのため、人類すべてが環境問題と真剣に向き合うことが求められているのです。

環境分野では、事業活動によって生じる環境負荷をいかにして軽減し、低炭素社会・循環型社会に転換させていくために、どのような行動を起こし、成果を上げているかをご紹介します。

天然ガスを主原料に都市ガスを製造

天然ガスは、工場でLNGを気化した後、熱量を調整しガスの臭いを付け都市ガスとして供給します。



◆ 都市ガスの性状 成分およびその含有量 (広島ガスにおける天然ガス供給区域)

成 分		組 成
名 称	化学式	体積%
メ タ ン	CH ₄	89
エ タ ン	C ₂ H ₆	5
プロパン	C ₃ H ₈	4
ブ タ ン	C ₄ H ₁₀	2

(注) ガス組成は代表値を示す。

ガス種 13A
 標準熱量 46.04655MJ/m³N
 (11,000kcal/m³N)
 比重 (空気=1) 0.655
 CO₂排出係数 2.36kg-CO₂/m³N

◆ 化石燃料の温室効果ガス排出量の比較 [ライフサイクルアセスメント(LCA)^{※1}]

単位(g-CO₂/MJ)

区 分	石 炭	石 油	LNG
生 産	4.58	4.06	9.17
輸 送	1.71	0.79	1.97
設 備	0.11	0.08	0.04
燃 焼	88.53	68.33	49.40
合 計	94.93	73.26	60.58
指 数 ^{※2}	100	77	64

<資料：「LNGおよび都市ガス13Aのライフサイクル温室効果ガス排出量の将来予測」
 「エネルギー・資源」Vol.28 No.2 (2007)>

※1 LCA手法で化石燃料の採掘から燃焼までの温室効果ガス排出量をCO₂換算し総発熱量ベースで算出

※2 指数は、石炭を100とした場合の温室効果ガス排出量比

※ライフサイクルアセスメント (LCA)

原材料の採取から製造、使用および廃棄に至るすべての過程を通じて、製品が環境に与える影響の大きさを定量的に整理、評価する手法

環境保全活動の基本的な考え方・しくみ

広島ガスは、1993年度に環境基本理念および環境行動指針を策定し、環境マネジメントシステム (EMS) により全社で環境保全活動を推進しています。環境保全活動は、関係会社を含めた企業グループ全体で推進することにより、一層大きな改善効果が期待できることから、2005年度に「広島ガスグループ環境基本理念」および「広島ガスグループ環境行動指針」を制定し、広島ガスグループとして環境保全への取り組みを推進しています。



廿日市工場・備後工場・東広島製造所 ISO14001認証取得

廿日市工場は、環境マネジメントシステムの一環として1999年度 ISO14001の認証を取得(審査登録機関:(財)日本ガス機器検査協会 JIA-QA センター)しました。2001年度には1999年度操業を開始した備後工場が、2009年3月には2006年度操業を開始した東広島製造所においても拡大審査に合格し、当社の都市ガス製造工場全て認証取得が完了しています。



ISO14001登録証

廿日市工場・備後工場・東広島製造所 環境方針

広島ガス株式会社 廿日市工場・備後工場・東広島製造所 (以下「当工場」という。)は、地球環境にやさしい天然ガスを主原料にクリーンなエネルギー都市ガスを製造し、さらに廿日市工場においては都市ガスを使用した発電および送電を行っており、この都市ガスの安定供給および発電を通して地球環境保全へ貢献している。

当工場は、環境負荷も低く設定されており、都市ガスの製造工程における燃料と電力使用量の少ない操業、発電工程における排熱の有効活用等により効率的なエネルギーの利用を行っているが、さらなる環境保全への貢献を図るため、広島ガスグループ環境基本理念をふまえ、環境行動指針を次のように定める。

● 環境行動指針

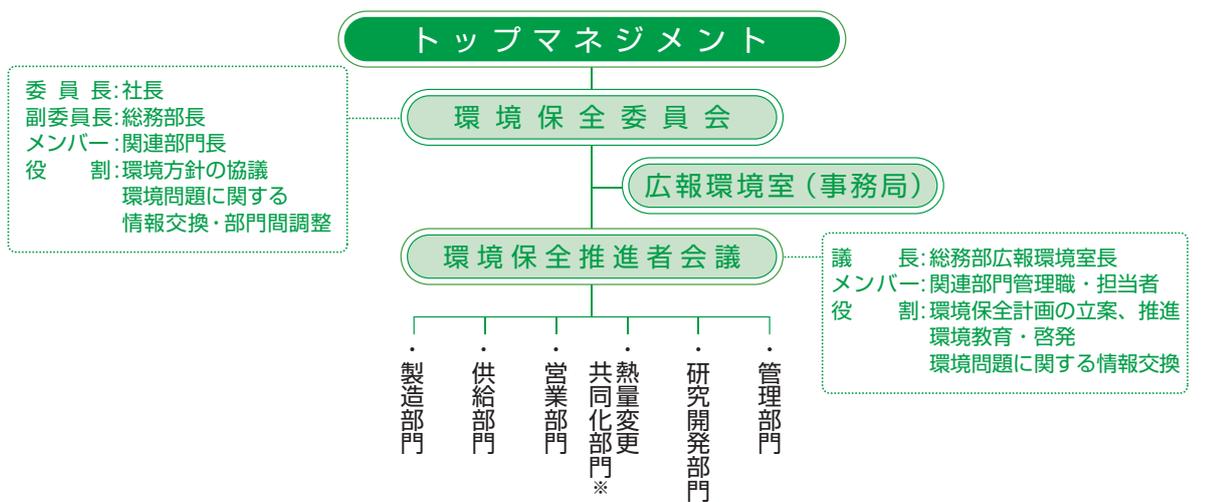
当工場で行う事業活動が環境に与える影響を把握し、ISO14001の要求項目に沿って環境目的・目標・プログラムを定め、定期的な見直しを行うとともに、環境マネジメントシステムの継続的改善を図る。

1. 以下の項目について積極的に活動し、環境保全と汚染防止に努める。

- ① 都市ガスの品質および安定供給を確保する。
- ② 省資源、省エネルギーを推進し、環境負荷の低減に努める。
- ③ 地域環境保全に貢献する。

2. 当工場の環境側面に関して適用可能な法的要求事項および当工場が同意するその他の要求事項を順守する。

環境活動推進体制



※ 熱量変更共同化部門は2009年6月30日廃止

環境マネジメントシステムの運用

PDCAサイクルに沿って環境保全活動をきめ細かく推進しています。

当社の環境マネジメントシステムは、従来から運用しているTQM（総合的品質経営）をベースに、環境保全活動をPDCAサイクルに沿って推進しています。環境保全活動を含めた中期経営計画の策定（P）、各部門改善活動の実施（D）、環境保全委員会等でチェック（C）、トップヒアリングでの見直し（A）等により、継続的なレベルアップをめざしています。



環境目標および実績

環境行動指針

1.お客さま先での環境負荷の低減
 広島ガスグループは環境負荷軽減に寄与する製品・サービスの提供を推進し、お客さま先での環境負荷の低減に努める。



2.事業活動における環境負荷の低減

広島ガスグループの事業活動が環境に与えている負荷を軽減するとともに、環境マネジメントの強化を図り、ゼロエミッションをめざした3R（廃棄物等の発生抑制、再使用、再資源化）を積極的に推進する。



3.地域環境保全への貢献

広島ガスグループが事業活動を営む地域の環境保全活動に、積極的に取り組む。



広島ガス長期環境目標

お客さま先でのCO₂排出量を、2010年度に**18万t-CO₂以上**抑制する。

当社事業活動（都市ガス製造時）におけるCO₂排出原単位を、2010年度に**50g-CO₂/m³（販売ガス量）**以下にする。

事務所（オフィス）におけるCO₂排出量を、**各年55t-CO₂削減**する。

低公害車（天然ガス自動車・燃料電池自動車等）を、2010年度に**当社全車両に導入**する。

産業廃棄物最終処分量（製造部門）を2010年度に**1t以下**にする。

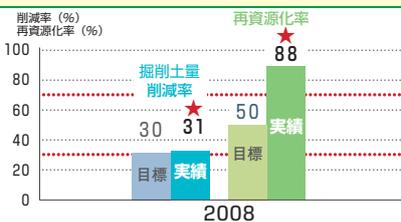
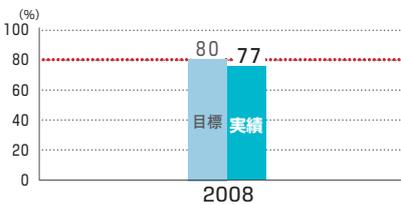
ガス導管工事から発生する掘削土量を、2010年度に従来工法に比べ**35%以上削減**し、再資源化率を**70%以上**にする。

2010年度に一般廃棄物の発生を、2001年度に対し**50%以上削減**し、再資源化率を**65%以上**にする。

各事業所において、地域と一体となった環境保全活動を実践する。

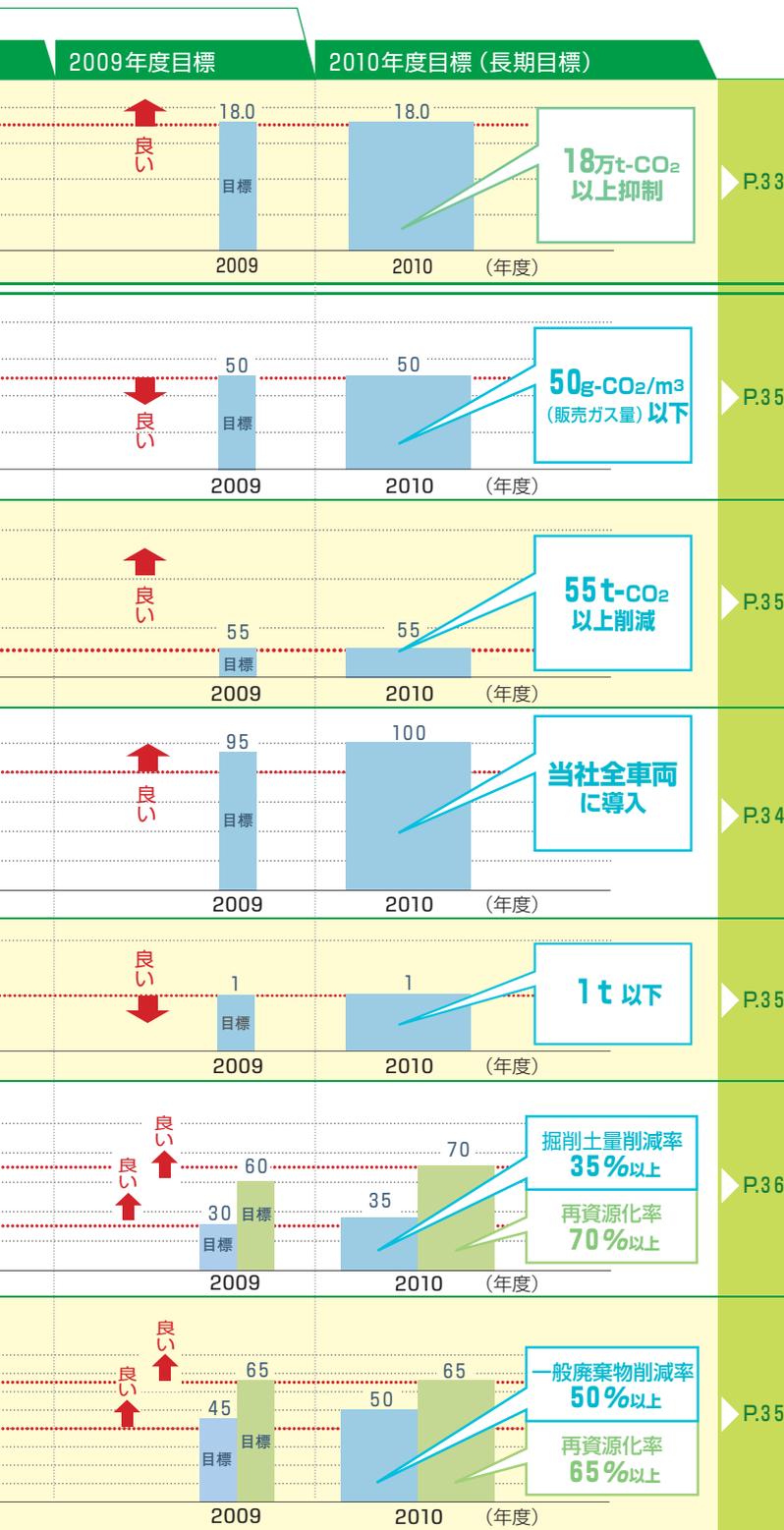
広島ガス中期環境目標

2008年度目標・実績



★目標を達成した項目のマークです。

環境保全活動を効果的に推進するために2002年度、環境行動指針に対応した広島ガス長期環境目標および3年間の中期環境目標を設定し活動を進めてきました。
 “事務所（オフィス）におけるCO₂排出量を削減する新たな目標”の追加を含め、2008年度以降を見直した中期環境目標を2007年度に設定しています。

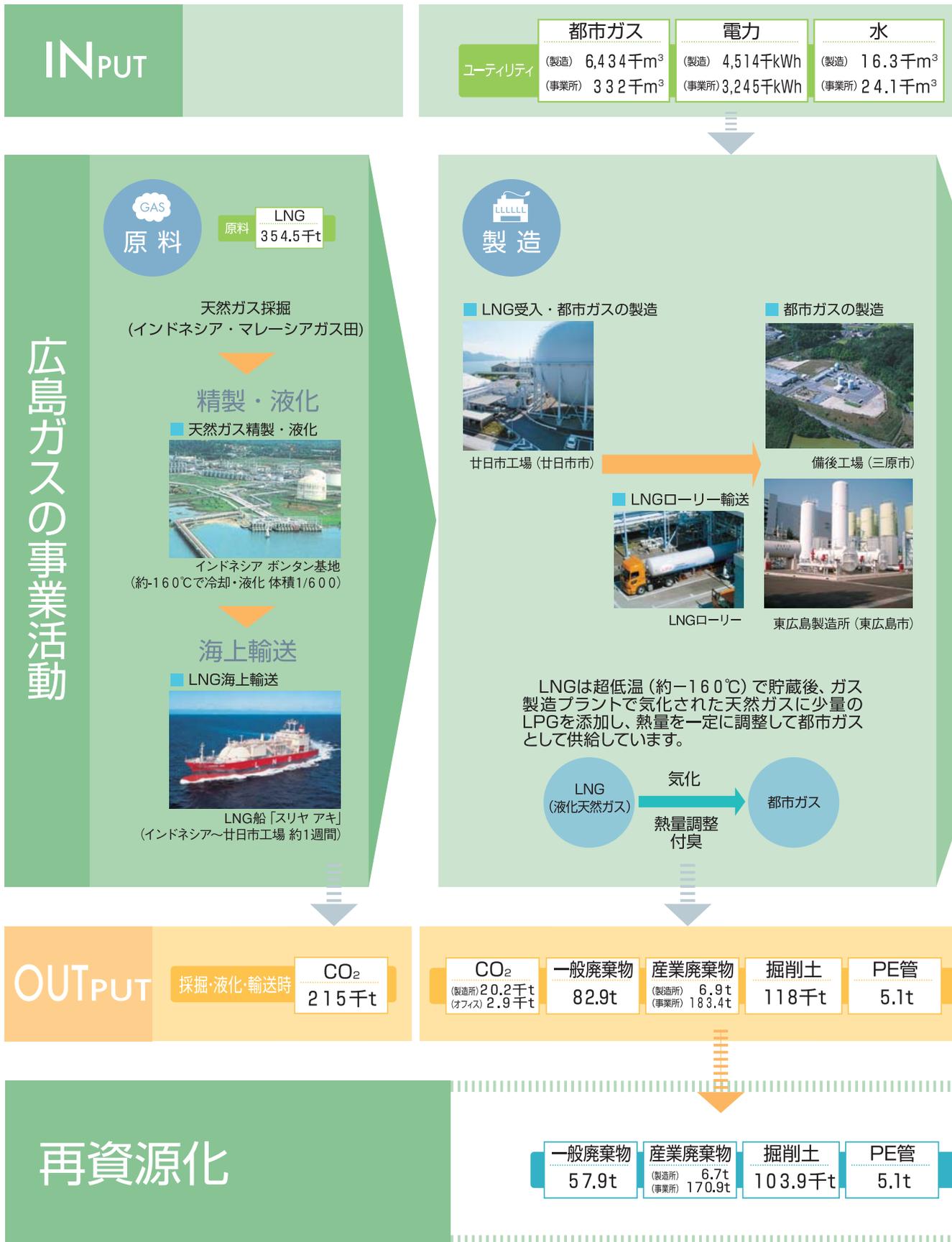


広島ガス中長期推進施策

- 天然ガスの普及促進と環境特性に優れたシステム・機器の普及による環境負荷の低減
 - 天然ガスの普及促進と高効率利用の提案
 - 低NOx機器の普及促進
 - 天然ガス自動車の普及促進
 - 資源の再生利用促進
 - 使用済みガス機器の回収・再資源化の促進
 - エコデザインガス機器の導入促進
 - その他お客さま先での環境負荷低減に関する事項
-
- エネルギーの有効利用による環境負荷の低減
 - 製造所におけるエネルギー有効利用への取り組み
 - 事業所におけるエネルギー有効利用への取り組み
 - 当社車両への天然ガス自動車等の導入促進
 - 資源消費の低減と廃棄物排出の最小化
 - 産業廃棄物の発生抑制と再資源化
 - 一般廃棄物の発生抑制と再資源化
 - 紙の使用量削減と再生利用の促進
 - ガス工事における排出物の削減と再生利用の促進
 - グリーン購入の促進
 - 環境マネジメントの充実
 - 社内における環境啓発活動の充実
 - その他事業活動における環境負荷低減に関する事項
-
- 地域の環境保全活動への参画
 - 地域環境保全活動への参加
 - 各種フェア等への出展による啓発活動の推進
 - 環境保全推進団体への参画
 - 熱量変更作業共同化の推進
 - その他地域環境保全への貢献に関する事項

事業活動における環境負荷 (2008年度実績)

2008年度の広島ガスの事業活動における主な環境負荷についてまとめました。



OUTPUT

採掘・液化・輸送時

CO₂ 215千t

CO ₂ (製造所) 20.2千t (オフィス) 2.9千t	一般廃棄物 82.9t	産業廃棄物 (製造所) 6.9t (事業所) 183.4t	掘削土 118千t	PE管 5.1t
---	----------------	-------------------------------------	--------------	-------------

再資源化

一般廃棄物 57.9t	産業廃棄物 (製造所) 6.7t (事業所) 170.9t	掘削土 103.9千t	PE管 5.1t
----------------	-------------------------------------	----------------	-------------

都市ガスを製造・供給するために、主原料としてLNGおよび熱量調整用のLPG、ユーティリティとして都市ガス・電力・水など、ガス導管としてPE管、鋼管などを使用しています。

エネルギーの使用によりCO₂が発生しますが、クリーンエネルギー天然ガスの優れた特長を活かし、他燃料から天然ガスへの転換、ガスコージェネレーションシステムおよび高効率ガス機器の普及等を推進することで、環境保全に貢献しています。



供給 導管（パイプライン） 総延長4,825km



ガス販売量 4億7千7百万立方メートル

■ 都市ガスの貯蔵



ガスホルダー

■ 導管工事



導管埋設工事

■ 圧力等遠隔監視制御



中央監視制御室（本社）

■ 都市ガスの供給



ガス管橋

■ 商業・公用（ホテル・ビル・学校等）



厨房、給湯、空調等

■ 工業用（工場等）



コージェネレーションシステム、加熱、空調等

■ 家庭用（給湯・空調等）



厨房、給湯、空調等

■ 天然ガス自動車

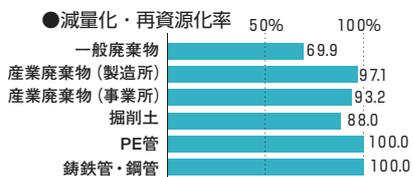


トラック・バス・乗用車等

鋳鉄管・鋼管
146.1t

お客さま先
CO₂
1,127千t

鋳鉄管・鋼管
146.1t



環境保全活動におけるお取引先との関係

廿日市工場・備後工場・東広島製造所においては、LNG船、LNGローリー等の役務提供者および購買先に対して、環境保全活動（サプライチェーン・マネジメント等）への協力を依頼しています。

- 環境保全に関する覚書
- 安全環境教育
- 協力依頼カード

環境会計

広島ガスでは環境マネジメントの一環として、事業活動における環境保全のためのコストとその活動による効果を可能な限り定量的に把握する環境会計の取り組みを1999年に廿日市工場で開始し、2002年度から全社へ拡大し集計しています。環境に関わるコストと効果を、環境省の「環境会計システムの確立に向けて〈2000年報告〉」をベースにした(社)日本ガス協会の「都市ガス事業における環境会計導入の手引き」(2002年10月改定)に基づき集計しました。

環境保全コストについて

「投資額」と「費用額」に分類して集計しています。

- 環境保全コストは、環境への負荷を低減させることを目的とした「投資額」と「費用額」としました。
- 都市ガス事業における「保安」や「安全」活動や「営業」に関わるコストは、環境負荷の低減につながる側面もありますが、活動自体が事業の根幹に関わるものであり、環境保全コストとしていません。

効果算定について

「環境保全効果」と「経済効果」に分けています。

- 効果は、環境負荷自体を低減させる物量効果(=環境保全効果)と、企業損益を経済的に向上させる効果(=経済効果)に分けています。
- 環境保全効果は、設備の稼働状況等により変動する可能性が高いので、「原単位方式」による公表を基本としています。
- 経済効果は、明確に算定できる効果とし、リスク回避等、推定や仮定を要す「みなし効果」は検討段階にあることから算定していません。

2008年度集計結果

●環境保全コスト

(単位：百万円)

環境保全コスト項目			投資額		費用額	
			2007年度	2008年度	2007年度	2008年度
		主な内容(例)				
自 社 業 務	公害防止	大気汚染、水質汚濁、騒音等の防止のための設備投資額、維持管理費、減価償却費、人件費等	0	0	7	7
	地球環境保全	省エネルギー、エネルギー有効利用、オゾン層保護等のための設備投資額、維持管理費、減価償却費、人件費等(主要内容：廿日市工場コージェネレーション稼働)	5	14	37	38
	資源循環	掘削残土削減、再資源化、廃棄物管理等のための設備投資額、維持管理費、減価償却費、人件費等	0	0	61	55
	環境マネジメント	グリーン購入、環境教育、EMS構築、環境対策組織等のコスト	0	0	24	23
	その他	工場立地法や条例に基づく工場の緑化等(主要内容：旧海田工場・旧阿賀工場土壌浄化工事)	0	20	67	45
お客さま先	環境R&D	環境負荷低減技術、高効率機器・システム開発のための研究開発コスト	11	9	41	38
社会貢献活動	自主緑化、景観保持、自然保護、美化地域の環境活動支援、環境広告、環境情報公表等		0	0	23	25
合 計			16	44	262	231

※2008年度費用額のうち減価償却費は、65百万円計上されています。※環境R&Dとは、研究開発コストのうち環境保全のためのものです。

※算定期間：2008年4月～2009年3月 算定範囲：広島ガス株式会社

- ①自社業務の地球環境保全における投資額は、本社ビル空調設備の老朽化に伴い、より高効率の設備に取り替え、環境負荷の低減を図ったため、増加しました。
- ②自社業務のその他における投資額は、旧海田工場のレイアウト変更に伴い土壌浄化設備を移設したため増加しました。
- ③自社業務の資源循環における費用は、ガス導管工事で排出されるアスファルトやコンクリートのリサイクル費用の縮小により減少しました。
- ④自社業務のその他における費用は、旧海田工場の土壌浄化設備の償却が進み減少しました。

● 効果

■ 環境負荷水準

環境負荷水準	2007年度	2008年度
NOx原単位(製造) (mg/m ³)	46	43
CO ₂ 原単位(製造) (g-CO ₂ /m ³)	46	47
CO ₂ 原単位(オフィス) (g-CO ₂ /m ³)	6	6
掘削発生土外部排出量 (千t)	21	14
産業廃棄物発生量 (t)	145	190
一般廃棄物発生量 (t)	98	83
(参考値) お客さま先でのCO ₂ 抑制量 (千t-CO ₂)	167	181

■ 企業内経済効果

(単位: 百万円)

経済効果	2007年度	2008年度
掘削発生土外部排出量削減に伴う経費削減額	162	246
有価物の売却額	0	0
その他 (燃料ガス使用量削減による経費削減額)	130	137
その他 (電力使用量削減による経費削減額)	0	0
合計	292	383

■ 全社設備投資額における環境設備投資額比率

	2007年度	2008年度
全社設備投資額(百万円)	3,569	5,520
環境設備投資額比率 (%)	0.5	0.8

■ 全社総売上高における環境費用額比率

	2007年度	2008年度
全社総売上高(百万円)	54,441	59,564
環境費用額比率 (%)	0.5	0.4

- ①ガス導管工事で排出された土砂の再資源化方法を改善することで“掘削発生土の外部排出量”が大幅に減少し、“経費削減額”も大幅に増加しました。
- ②一般廃棄物の発生量は約15%減少しましたが、産業廃棄物の発生量は約23%増加しました。

環境効率について

当社は、環境保全活動の取り組みの評価の一つとして、企業活動と環境保全がバランスし両立している状況を把握する指標である環境効率を採用しています。一般的に“経営指標等を環境負荷総量で割った数値”で表しますが、当社は「ガス販売量」を「CO₂発生量」で割った値としています。

2008年度の環境効率は、対前年では、ほぼ横バイですが、2005年、2006年度と比較すると良好であり、環境への取り組みは順調であると評価できます。

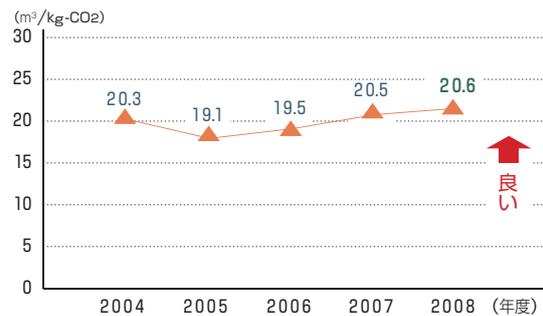
$$\text{環境効率} = \frac{\text{ガス販売量}}{\text{CO}_2\text{発生量(製造+オフィス)}}$$

■ 環境効率試算結果

項目	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度
ガス販売量 (百万m ³)	373	417	453	501	478
CO ₂ 発生量(製造) (千t-CO ₂)	16	19	20	21	20
CO ₂ 発生量(オフィス) (千t-CO ₂)	2	3	3	3	3
環境効率 (m ³ /kg-CO ₂)	20.3	19.1	19.5	20.5	20.6

※2004年度より天然ガスを燃料としたガスコージェネレーションシステムを稼働しましたが、経営指標をガス販売量に限定しているため、電力発電(売電用)に伴い発生するCO₂量は除いています。

■ 環境効率

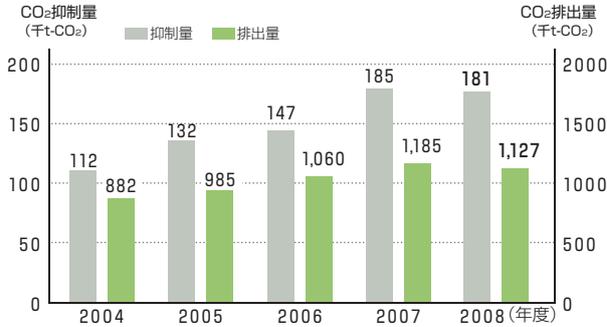


お客さま先での環境負荷の低減

天然ガスの普及促進によるCO₂発生抑制

天然ガスおよび高効率ガス機器の普及等によりCO₂発生量の抑制に貢献しています。

■ お客さま先でのCO₂排出量・抑制量



環境関連新技術の研究開発

技術研究所では、環境に優しい天然ガスの普及により、人と環境とエネルギーの調和した快適な暮らしをお客さまにご提案するため、エネルギー高効率利用および再生可能エネルギーの利活用等に係わる技術開発を積極的に進めています。



工業用高効率省エネバーナの開発
(2008年(社)日本ガス協会技術賞受賞)



バイオガス専燃コージェネレーションシステムの開発
(ロータリーエンジン)

天然ガス高効率利用の促進

家庭用高効率機器の普及

● 家庭用燃料電池コージェネレーションシステム 「エネファーム」(2009年度販売開始) P.5

天然ガスから取り出した水素と空気中の酸素を燃料電池で化学反応させ発電し、その際に出る熱を給湯や暖房に利用するコージェネレーションシステム。



エネファーム (700W)

● 家庭用ガスエンジンコージェネレーションシステム 「エコウィル」(累計販売台数 375 台)

小型ガスエンジンで発電機を回し発電し、その際に出る熱を給湯や暖房に利用するコージェネレーションシステム。



● 高効率給湯器「エコジョーズ」(累計販売台数 5,597 台)

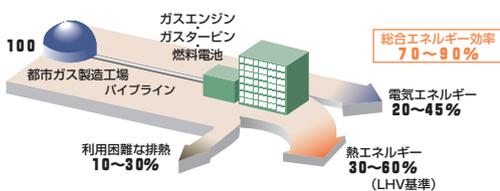
今まで捨てていた排熱をコンデンス技術を使って再利用し、熱効率を80%から95%まで引き上げた高効率給湯器。



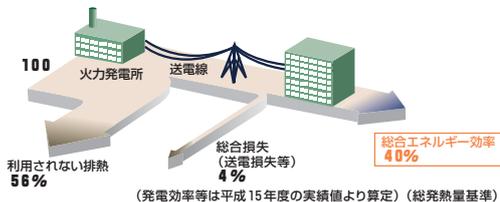
高効率給湯器エコジョーズ

業務用高効率設備・機器の普及

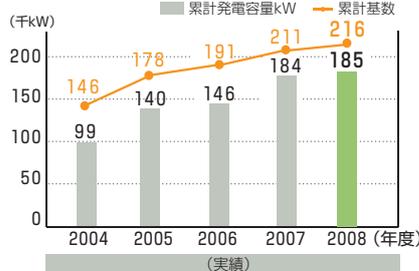
● ガスコージェネレーションシステム



● 従来方式による発電システム



■ ガスコージェネレーションシステム普及の推移 (業務用)



広島工業大学 新講義棟
「三宅の森 Nexus21」

ガスコージェネレーションシステム

都市ガスを燃料としてガスタービンやガスエンジン・燃料電池などで発電を行い、その時に発生する排熱を有効利用し、冷暖房・給湯等を行うシステムです。投入したエネルギーをムダなく使うことができるため、省エネルギー効果が大きく、CO₂発生量の抑制にも効果があります。

● その他環境特性に優れた設備・機器の普及

- 低NO_x機器の普及
- ガス吸収式冷温水機によるオゾン層の保護
- エコデザイン機器の普及

天然ガス自動車の普及促進



天然ガス自動車（NGV）は、ガソリンや軽油の代わりにクリーンな天然ガスを燃料に走行する自動車です。その排出ガスには、発ガン性が指摘されている黒煙（粒子状物質）や酸性雨の原因となる硫黄酸化物を排出せず、地球温暖化の原因となるCO₂もガソリン車に比べて低く抑えることができます。

● 街で活躍する天然ガス自動車



路線バス



トラック



ロゴマーク

● エコ・ステーションおよび天然ガススタンドマップ

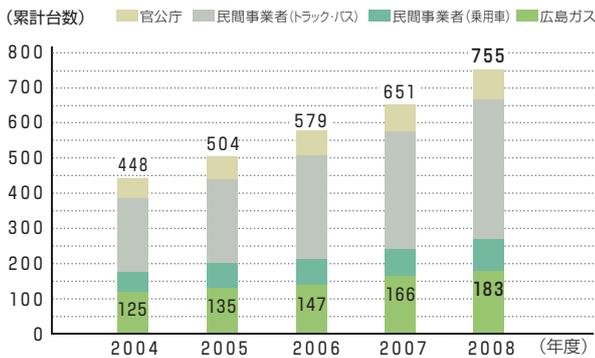


※エコ・ステーション

天然ガスは、天然ガススタンド（急速充填所）や昇任供給装置（小型充填機）で自動車へ充填できます。ガソリンスタンドやLPガススタンドに低公害車（天然ガス自動車等）への燃料供給設備を併設するものをエコ・ステーションといいます。

天然ガス自動車の普及状況

■ 天然ガス自動車累計普及台数（広島ガス供給エリア内）



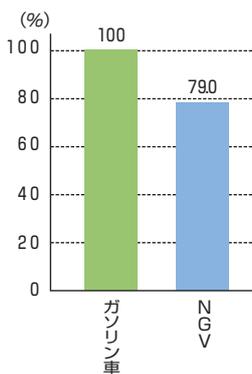
■ 全国の天然ガス自動車および天然ガススタンドの普及状況 (2009年3月末現在)

天然ガス自動車	全国 …………… 37,117台 広島地区 …………… 755台 (内数)
天然ガススタンド (急速充填所)	全国 …………… 344カ所 広島地区 …………… 9カ所 (内数)

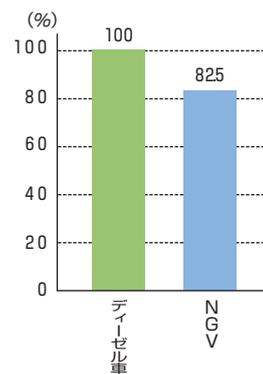
天然ガス自動車のクリーン性

■ 走行時のCO₂排出量比較

● ガソリン車との比較

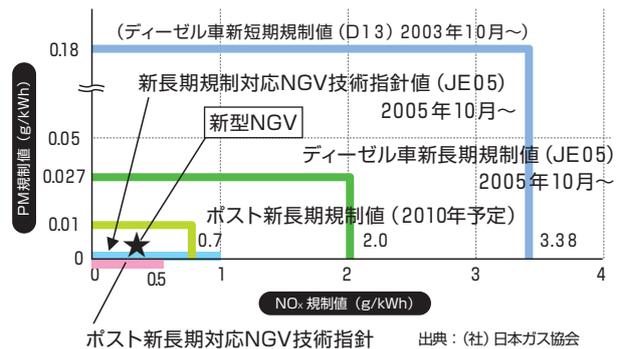


● ディーゼル車との比較



出典：「NGVエコドライブキャンペーン実施報告書」（2005.9）日本ガス協会

■ 排気ガス排出比較



出典：(社)日本ガス協会

事業活動における環境負荷の低減

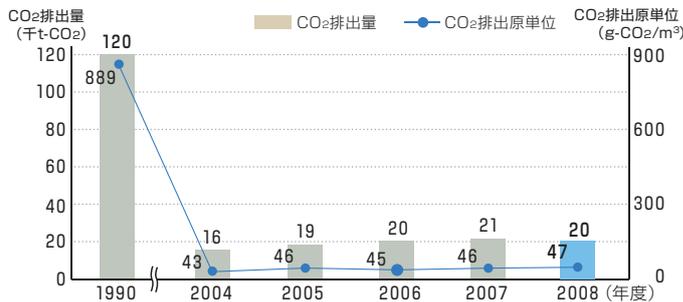
製造所におけるエネルギー有効利用

2004年9月、廿日市工場にガスコージェネレーションシステムを導入し、発電した電力を廿日市工場で使用するとともに、約10kWの余剰電力はPPS(特定規模電気事業者)*等に卸売供給をしています。また、排熱はLNG気化用熱源としての活用により燃料が削減できると同時にCO₂も削減する等、エネルギー有効利用とCO₂排出量の抑制が一層進んでいます。2008年度のCO₂発生量は、天然ガス転換による効果と合わせて、1990年度に比べ10万t、83%削減できました。



ガスコージェネレーションシステム(廿日市工場)

都市ガス製造におけるCO₂排出量



廿日市工場ガスコージェネレーションシステム概要

- ・発電容量 11,000kW(高効率天然ガスエンジン5,500kW×2基)
- ・送電容量 最大10,000kW(特別高圧22kV)
- ・総合効率 約78%(発電効率42%、熱回収効率36%)
- ・運転形態 DSS(Daily Start & Stop)運転(昼間運転)

※PPS(特定規模電気事業者)

電力の自由化対象のお客さまに対し、電力会社の送電線等を通じて電力の小売を行う新規参入者

事業所におけるエネルギー有効利用

エコオフィス活動

事務所におけるCO₂排出抑制、廃棄物の削減等を推進しています。

エコオフィス活動

1. エネルギーの有効利用：電気節約、水節約、エコドライブの推進
2. 資源消費の低減：紙の使用削減と再資源化、グリーン購入の促進
ノーマイカーデー運動への参加
(広島市マイカー乗るまっデーなど外部主催分)
クールビズ・ウォームビズの実施
マイ箸・マイカップ
3. 廃棄物の発生抑制と適正処理：分別強化、リサイクル推進

「チーム・マイナス6%」への参加



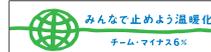
地球温暖化防止に取り組む国民運動「チーム・マイナス6%」へ参加し、全社員がCO₂削減に取り組んでいます。

省エネ機器の導入

本社ビルの会議室では、省エネルギー性に優れたLED照明を試験導入しました。また、本社および一部の事業所のトイレには人感センサー、擬音機を取り付ける等省エネ・省資源に努めています。



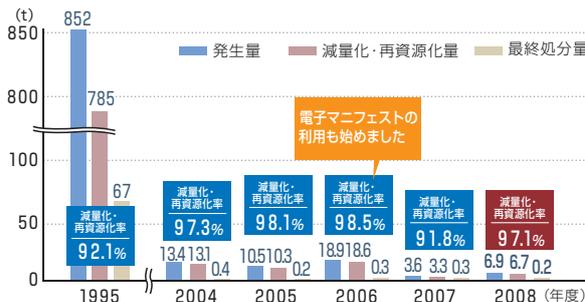
LED照明(会議室)



産業廃棄物の削減と再資源化

原料を天然ガスに転換したことにより、製造所からの産業廃棄物排出量は激減しました。

産業廃棄物(製造所)の減量化・再資源化



- 廃蛍光管を再資源化しリサイクル蛍光管として再利用。
- お客さまから回収した使用済みガス機器の再資源化。
- 電子マニフェスト採用(2007.3~廿日市工場)

一般廃棄物の削減と再資源化

当社では、エコオフィス活動による一般廃棄物の削減と再資源化を推進し、発生量は年々低減しています。

一般廃棄物の発生量と外部排出量



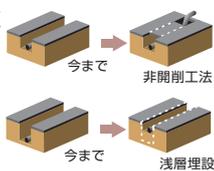
- すべての紙ごみ(機密文書、再生可能な紙ごみ)の再資源化、用紙使用量の削減(帳票電子化等)
- 割り箸を製紙会社に送り再資源化。
- 生ゴミ処理機により、ゴミの減量化・肥料化。

ガス導管工事における排出物削減と再資源化

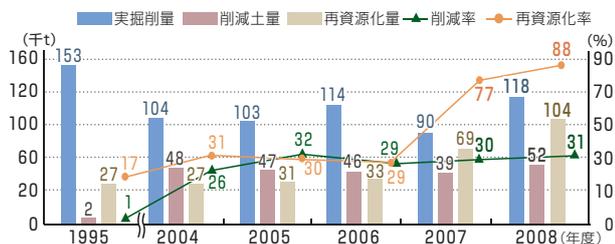
新工法の採用、再資源化の推進等によりアスファルト・コンクリート・土砂等の排出量の削減に努めています。

ガス導管工事における掘削土の削減と再資源化

- **非開削工法による掘削土の削減**
道路を掘らないでガス導管を埋設する工法
- **浅層埋設による掘削土の削減**
道路に埋設するガス導管の深さを従来より浅く埋設する工法
- **掘削土の直接埋め戻しまたは再資源化処理し再利用**
ガス導管工事で排出された土砂のうち、良質のものまたは再資源化したものを埋め戻しに使用



掘削土処理状況



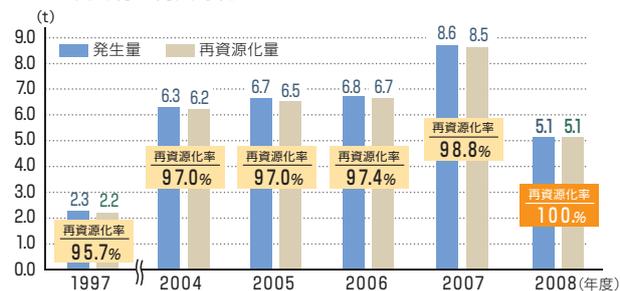
ポリエチレン管の普及促進と廃材の再資源化

ガス導管には耐食性・可とう性に優れ地震にも強いポリエチレン管 (PE管) を1989年から採用しています。また、不要になったPE管は再資源化しています。



PE管の残管置場

PE管廃材の再資源化量



環境に関する規制遵守

2008年度、環境に関する法令違反や罰則はありませんでした。

化学物質の管理



- **アスベスト使用状況調査とその対応**
当社および関係会社6社は、アスベストに関する健康被害状況と自社所有建物および設備等における使用状況を調査したところ、健康被害はありませんでしたが一部使用が確認され、その内、吹き付け部が露出している1カ所のアスベスト除去を2005年10月に完了しました。調査結果は2005年9月に公表するとともに、適切に対応を行っています。
- **PCB(ポリ塩化ビフェニール)の管理**
トランス、コンデンサー等に使用されていたPCBは保管場所を決め集積・管理し、行政へ管理状況を報告しています。
- **PRTR法*への対応**
化学物質の取扱い量は、天然ガス転換により激減し、2008年度は、規定量の届出物質はありませんでした。

*PRTR法
特定の化学物質を規定量以上取扱いの際に排出・移動量を届け出る事を定めた法律。

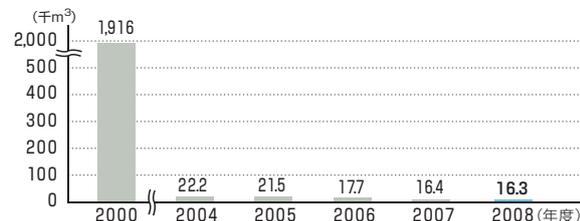
地球温暖化対策推進法への対応

第1種エネルギー管理指定工場を有する当社は、2006年4月1日付の「地球温暖化対策の推進に関する法律」の改正・施行に基づき、当社工場の排出する地球温暖化ガスの2008年度分について、その排出量を法に従って算定し、国等に適切に報告しました。

水使用量の削減

天然ガスへの転換により、都市ガスの製造工程が簡略化され、水の使用量および排水量も格段に減少しています。

製造所での水使用量



土壌調査とその対応



当社は、天然ガス転換完了を機に石炭を主原料としていた旧海田工場並びに旧阿賀工場の製造設備跡地の土壌調査を自主的に行った結果、砒素、シアン等による汚染が判明しましたので、2003年12月に公表するとともに近隣の皆さまへの説明を行いました。調査の結果からも周辺の生活環境への影響はないものと考えておりますが、将来にわたる周辺への影響を防止するため対策工事を実施し、2004年度に完了しました。その後も両用地とも地下水モニタリングを実施しており、海田工場跡地につきましては、揚水井戸、水処理装置を使用して、揚水による浄化を継続しています。



水処理装置 (旧海田工場跡地)

地域環境保全への貢献

事業所における環境保全活動

地域清掃

「自分たちの町は自分たちの手できれいに」をスローガンに、毎月1回各事業所周辺の美化活動を実施しています。

また、2008年6月には、広島市中心部の清掃活動「ごみゼロクリーンウォーク」、7月には「クリーン太田川」河川一斉清掃にも参加しました。



事務所周辺清掃（各事務所毎月1回実施）

植樹による環境啓発活動

廿日市工場および備後工場では、地域の人々や社員に対して地球環境保全の啓発に活用するため、NOxの吸収能力に優れたヒマラヤ桜等の樹木を栽培しています。2005年度には、2000年スペースシャトル「エンデバー」に宇宙飛行士毛利衛さんと一緒に搭乗した、宇宙桜（エゾヤマザクラ）を植樹しました。



宇宙桜（廿日市工場）

地域における環境教育の実施 HP P.49

行政、学校等と連携して環境教育活動を推進しています。

環境教育実績	
開催期日	出前授業（社会分野 P.49 参照）
2008年度 通期	サイエンスショー【小学校23校、中学校2校、その他15カ所訪問】
	環境エネルギー授業【小学校1校訪問】
	理科教育(実験)プロジェクトによる授業（社会分野 P.50 参照）
	燃料電池実験等【小学校1校、中学校3校】
	工場見学・環境教育
	【廿日市工場146名、備後工場4名】
	総合学習支援（社会分野 P.50 参照）
	広島大学附属東雲中学校【環境授業、工場見学等】
	公民館等環境教育
	環境教育、エコ・クッキング等【公民館主催4回開催76名】
	生協ひろしまエコ・クッキング
	【生協ひろしま共催 4回開催76名】
	広島消費者協会エコ・クッキング
	【(社)広島消費者協会主催 2回開催30名】
2008.7	広島修道大学環境講義
2008.7	先生方のためのエネルギー・環境問題セミナー・見学会
	【エネルギー・環境教育情報センター 9名】
	エコ・クッキング、廿日市工場見学
2008.8	「広島セカンドライフくらぶ」にて講演
2008.11	広島大学環境講義
2008.11	「東広島市地球温暖化対策地域協議会」にて講演

ショールームにおける環境啓発活動

ガストピアセンター（ショールーム）においては、省エネルギー機器の展示を始め、エコ・クッキング等の環境関連セミナーを開催しています。

- エコクッキング料理教室等（4回開催 107名）

エコ・クッキング料理教室

環境に配慮した調理方法（買い物・調理・後片付け）を学ぶ料理教室

※「エコ・クッキング」は東京ガス（株）の登録商標です。



環境講演（広島セカンドライフくらぶ）



親子エコクッキング料理教室（ガストピアセンター）

各種環境フェア等への出展 HP P.49

環境イベント参加実績	
開催期日	開催期日
2008.5	第42回消費生活展【広島市】
	SIセンサーコンロ、都市ガス警報機展示
2008.6	環境の日ひろしま大会【環境の日ひろしま大会実行委員会】
	サイエンスショー、省エネ機器、天然ガス自動車展示
2008.8	夢・化学21【広島大学】
	燃料電池実演、展示
2008.10	くれエコフェスタ2008【くれ環境市民の会】
	省エネ機器展示
2008.10	GOGOカーにのぼる【(社)広島県自動車整備振興会】
	天然ガス自動車展示
2008.10	第3回環境まつりDin尾道【尾道市】
	天然ガス自動車展示
2008.10	トラックまつり【(社)広島県トラック協会】
	天然ガス自動車展示
2008.11	省エネルギーALL-IN【中国経済産業局】
	省エネ機器展示
2008.12	第5回ひろしま温暖化ストップ!フェア
	【広島市地球温暖化対策地域協議会・広島市】
	サイエンスショー、省エネ機器・パネル展示

地域環境保全推進団体・環境啓発事業への参画

広島県内の企業・団体により構成されている環境保全推進組織へ委員として参画し、環境教育・各種イベント等を支援しています。

団体・事業	事務局	支援活動
ひろしま地球環境フォーラム	広島県	イベント支援等
広島県青少年ボランティア活動推進委員会	広島県	青年の地域貢献活動支援事業「チャレンジファンド」協賛
広島市地球温暖化対策地域協議会	広島市	イベント支援等
地球温暖化対策はつかいちさくら協議会	廿日市市	工場見学等
廿日市エコサポーターズクラブ	廿日市市	工場見学等
広島修道大学環境コンテスト	広島修道大学	環境コンテスト「修大エコチャレンジ」後援



環境の日ひろしま大会（ひろしま地球環境フォーラム）

- 「広島ガス環境グループ」チームが広島市地球温暖化対策地域協議会「エコライフポイント」最優秀団体表彰受賞（2008年8月）

本社ビル屋上緑化

2006年1月ヒートアイランド現象の緩和、断熱効果による省エネ等環境保全をねらいとして、本社ビル屋上（300m²）に樹木を植えた屋上庭園を設置し、社員の憩いの場として活用しています。



屋上庭園

熱量変更作業の共同推進

P.15

2002年4月の当社における天然ガス転換作業完了に引き続き、中国・四国地区都市ガス事業者の高カロリーガスへの転換作業を支援しています。IGF21プロジェクト（2010年までに全国の都市ガス会社を高カロリーガスに統一する）を達成するために、各事業者と協力体制を組み、計画的に転換作業を進めています。



広島ガスグループにおける環境関連事業

LPGタンカー窒素パージ事業（広島ガスサービス（株））

広島ガスサービス（株）は、LPGタンカーのパージ事業を広島ガス海田基地内で実施しています。

事業開始当初は、カーゴタンク内LPG残ガスの80%を海上で大気放出し20%を燃焼処理していましたが、現在はLPG回収設備を設置し、回収したLPGはほぼ全量を都市ガスの増熱用原料として活用（年間約500t）しています。

従来燃焼処理していた約100tのLPGを有効利用することにより、CO₂発生量は年間約300t-CO₂削減し、温室効果ガス排出の削減に貢献しています。



LPGタンカー窒素パージプラント

自動車解体ゴミリサイクル事業（広島ガステクノ（株））

広島ガステクノ（株）は、環境関連設備のエンジニアリングを主要事業としていますが、自動車解体ゴミのリサイクル技術を開発・事業化し、2006年7月広島ガスの海田工場跡地内に「ASR[※]再資源化プラント」を設置し操業しています（処理能力=720t/月）。このASR再資源化技術は、廃棄物炭化・乾留システムというリサイクル率90%以上を誇る独自技術で、有機物と金属類の混在廃棄物を少ない燃料で効率よく乾留させて金属類と炭化物に分類し、生成物は製鉄会社等に販売しています。また、このプラントの設計・施工も行っています。



ASR 再資源化プラント

※ASR: Automobile Shredder Residue(自動車シュレッダーダスト)

環境活動のあゆみ

環境活動年表



環境省ガイドライン対照表

「環境報告ガイドライン」 ~2008年版~

<記載項目>	<We do! 2009 掲載ページ>
1. 基本的項目: BI	
BI-1 経営責任者の緒言	3~4
BI-2 報告に当たっての基本的要件	
BI-2-1 報告の対象組織・期間・分野	1裏表紙
BI-2-2 報告対象組織の範囲と環境負荷の捕捉状況	19
BI-3 事業の概要(経営指標を含む)	7~22
BI-4 環境報告の概要	
BI-4-1 主要な指標等の一覧	7~8,17~22,29~32,36,40
BI-4-2 事業活動における環境配慮の取組に関する目標、計画及び実績等の総括	27~28
BI-5 事業活動のマテリアルバランス (インプット、内部循環、アウトプット)	29~30
2. 環境マネジメント指標: MPI	
MP-1 環境マネジメントの状況	
MP-1-1 事業活動における環境配慮の方針	25~28
MP-1-2 環境マネジメントシステムの状況	25~26
MP-2 環境に関する規制の遵守状況	36
MP-3 環境会計情報	31~32
MP-4 環境に配慮した投融資の状況	31~32
MP-5 サプライチェーンマネジメント等の状況	29~30
MP-6 グリーン購入・調達状況	27~28,40
MP-7 環境に配慮した新技術、DfE等の研究開発の状況	27~28,33
MP-8 環境に配慮した輸送に関する状況	27~28,34
MP-9 生物多様性の保全と生物資源の持続可能な利用の状況	—
MP-10 環境コミュニケーションの状況	27~28,37~38,47~50,53~54
MP-11 環境に関する社会貢献活動の状況	27~28,37~38,47~50
MP-12 環境負荷低減に資する商品・サービスの状況	27~30,33~34
3. オペレーション指標: OPI	
OP-1 総エネルギー投入量及びその低減対策	29~30,35,40
OP-2 総物質投入量及びその低減対策	29~30,40
OP-3 水資源投入量及びその低減対策	29~30,36,40
OP-4 事業エリア内で循環的利用を行っている物質等	35~36,38,40
OP-5 総製品生産量又は総商品販売量	29~30,40
OP-6 温室効果ガスの排出量及びその低減対策	27~30,33~36,40
OP-7 大気汚染、生活環境に係る負荷量及びその低減対策	40
OP-8 化学物質の排出量、移動量及びその低減対策	36
OP-9 廃棄物等総排出量、廃棄物最終処分量及びその低減対策	27~30,35~36,40
OP-10 総排水量等及びその低減対策	—
4. 環境効率指標: EEI	
環境配慮と経営との関連状況	31~32
5. 社会パフォーマンス指標: SPI	
社会的取組の状況	
① 労働安全衛生に関する情報・指標	52
② 雇用に関する情報・指標	51
③ 人権に関する情報・指標	52
④ 地域及び社会に対する貢献に関する情報・指標	37~38,47~50
⑤ 企業統治(コーポレートガバナンス):企業倫理・コンプライアンス及び公正取引に関する情報・指標	11~14
⑥ 個人情報保護に関する情報・指標	13
⑦ 広範な消費者保護及び製品安全に関する情報・指標	6,43~46
⑧ 企業の社会的側面に関する経済的情報・指標	—
⑨ その他の社会的項目に関する情報・指標	—

データ一覧

お客さま先			2006年度	2007年度	2008年度		
お客さま	お客さま件数		428,330	427,438	425,977		
大気	お客さま先でのCO ₂ 排出	排出量(t-CO ₂)	1,059,602	1,184,667	1,127,275	抑制量は、天然ガス転換およびガスコージェネレーションシステムの普及等による	
		抑制量(t-CO ₂)	146,646	185,513	180,780		
事業活動に伴うもの							
原料・製品	原料LNG量(千t)		364.3	382.4	354.5		
	原料LPG量(千t)		1.4	1.5	1.2		
	増熱LPG量(千t)		11.0	12.1	10.2		
	ガス販売量(百万m ³)	卸供給含む		453.1	501.7	477.7	
		卸供給含まず		449.3	470.6	431.9	
	ガス化効率(%)		99.1	99.0	99.0		
エネルギー	購入電力使用量(千kWh)	製造	4,234	4,399	4,514		
		オフィス	3,325	3,209	3,245		
		合計	7,559	7,608	7,759		
	都市ガス使用量(千m ³)	製造	6,312	6,917	6,434		
	オフィス	380	359	332			
	合計	6,692	7,276	6,766			
用水	用水使用量(千m ³)	製造	17.7	16.4	16.3		
		オフィス	26.8	23.7	24.1		
		合計	44.5	40.1	40.4		
用紙	使用枚数(千枚)		3,405	3,124	3,831		
大気・水質	都市ガス製造時のCO ₂	排出量(t-CO ₂)	20,056	21,474	20,219	環境省「温室効果ガス排出量算定報告マニュアル」の算定方法で計算	
		排出原単位(g-CO ₂ /m ³)	44.8	45.8	46.8		
		抑制量(t-CO ₂)	289,373	333,014	317,194		
		NOx	22.8	21.7	18.3		
		メタン	10	10	11		
	オフィスでのCO ₂	排出量(t-CO ₂)	3,172	3,052	2,905		
		排出原単位(g-CO ₂ /m ³)	7.0	6.1	6.1		
廃棄物等	一般廃棄物	発生量(t)	96.2	98.4	82.9		
		再資源化量(t)	66.6	76.4	57.9		
		再資源化率(%)	69.2	77.6	69.9		
		外部排出量(t)	29.6	22.0	24.9		
		産業廃棄物(製造所)	発生量(t)	18.9	3.6	6.9	
		減量化・再資源化量(t)	18.6	3.3	6.7		
		減量化・再資源化率(%)	98.5	91.8	97.1		
		最終処分量(t)	0.3	0.3	0.2		
	産業廃棄物(事業所)	発生量(t)	157.5	141.9	183.4		
		減量化・再資源化量(t)	124.4	137.4	170.9		
		減量化・再資源化率(%)	79.0	96.8	93.2		
		最終処分量(t)	33.1	4.5	12.5		
	ポリエチレン管	発生量(t)	6.8	8.6	5.1		
		再資源化量(t)	6.7	8.5	5.1		
		再資源化率(%)	97.4	98.8	100.0		
	鉄鋼管・鋼管	発生量(t)	258.8	132.2	146.1	ガス工事会社分を含む。	
		再資源化量(t)	258.8	132.2	146.1		
		再資源化率(%)	100.0	100.0	100.0		
	ガス管工事に伴う土砂	発生量(千t)	114	90	118	ガス工事会社分を含む。 (抑制量は、非開削工法の採用および、浅層埋設の採用等による。)	
		削減量(千t)	46	39	52		
削減率(%)		28.6	30.4	30.8			
再資源化量(千t)		33	69	104			
再資源化率(%)		29.1	77.0	88.0			
天然ガス自動車	普及台数(台)	乗用車	259	285	337	普及台数は、広島ガス管内での値を示す。	
		トラック	276	310	349		
		塵芥車	25	30	34		
		バス	19	26	35		
		合計	579	651	755		
	社内導入台数(台)	147	166	183	社内導入台数は、上記の内数を示す。		
グリーン購入	購入率(%)	89	84	89			
CO₂排出係数							
購入電力	全電源平均値(kg-CO ₂ /kWh)		0.555	0.555	0.555	※1	
	火力平均値(kg-CO ₂ /kWh)		0.690	0.690	0.690	※2	
都市ガス	13A(kg-CO ₂ /m ³ N)		2.36	2.36	2.36	当社の都市ガス(13A)の代表的な組成から算出	

※1 特定排出者の事業活動に伴う、温室効果ガスの排出量の算定に関する省令(2006.3 経済産業省、環境省令第3号)

※2 中央環境審議会目標達成シナリオ小委員会中間まとめ(2001.6)

社会分野

地域の皆さまとともに、サステナブル（持続可能な）社会の実現にむけた取り組みを推進してまいります。

社会活動の考え方



お客さまとの関わり

都市ガスを安心して安全に、そして満足してご利用いただけるよう、さまざまな対策をきめ細かく実施しています。

▶ P.43



従業員との関わり

やりがい・働きがいがあり、従業員にとっても働きやすいそんな、職場環境をめざします。

▶ P.51

広島活



広島ガスは、おかげさまで100周年。

サステナブル社会



当社は創立以来、公益事業者として社会基盤を支える必要不可欠な事業とサービスを提供させていただき、揺るぎのない「信頼」という資産＝ブランドを築き上げてきました。エネルギーを安定的かつ安全にお届けし、安心して安全にお使いいただくという本来業務に加え、地域の皆さまと連携したさまざまな活動を通じ、サステナブル社会の実現に取り組んでまいります。社会分野ではその活動をご紹介します。



地域社会との関わり

地域の皆さまのために、
地域の未来のために、
さまざまな貢献活動を行っています。

▶ P.47



情報発信・ コミュニケーション

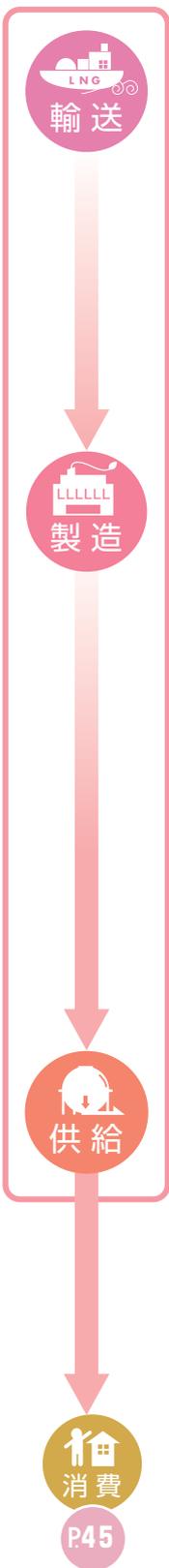
広島ガスは「社会的責任」を
果たすため、さまざまな情報を
発信しています。

▶ P.53

ガスの 動

の実現をめざして

お客さまとの関わり 都市ガスを安心して安全に、そして満足してご利用いただけるよう、



LNG船による輸送

LNG船は国際条約に従って安全航行に努め、燃料にも天然ガスを併用し環境へ配慮しています。



インドネシア ポンタン基地



LNG船 スリヤアキ

- 輸送中にLNGが気化したボイル・オフ・ガスの船舶燃料への有効利用（環境負荷の低減）
- 港湾設備の保安対策の強化・実施（改正ソーラス条約対応等）
- 荷役作業時のコンピュータシステムによる常時監視と船陸相互の作業手順確認の徹底



廿日市工場・備後工場・東広島製造所

環境に配慮し災害に強い工場で都市ガスを製造しています。



中央制御室での一括監視
(廿日市工場)



化学消防車 (廿日市工場)

- 安全性と景観に配慮した地中式（ピットイン式）LNG貯槽*の採用
- 景観に配慮した工場全体の色彩計画
- 行政や業界の技術基準に対応した設備の設計・建設（材料、溶接、耐震設計等）
- コンピュータシステムによる運転制御・誤操作防止と中央制御室での24時間一括監視
- オペレーター等の教育の徹底と緊急措置訓練の実施
- 法定・自主基準による設備保全の実施
- 防災設備の設置（水幕、散水、粉末消火、泡消火、化学消防車等）

※地中式（ピットイン式）LNG貯槽
地中に構築したコンクリート製のピットの中にLNG貯槽を設置するタイプで、日本では当社が初めて採用しました。このタイプは、液面が常に地表面よりも下にあり、外周のピットが防液堤の役目を果たす等、安全性にも優れています。



都市ガスのお届け

都市ガスの供給状況を一元管理し、安定供給と保安の確保に努めます。



中央監視制御室



技能者の養成（緊急措置）



ブロック化による供給停止エリアの限定
(広島地区概念図)

- 行政や業界の基準に対応した設備の耐震設計と耐震性の高い導管設備の導入（ポリエチレン管、融着継手、メカニカル継手等）
- ガスホルダー、整圧器、導管等の巡視・点検・検査等の実施
- 中央監視制御室での遠隔による送出圧力等の監視・操作（24時間常時監視）
- 作業担当者等の教育の徹底と緊急措置訓練の実施
- マッピングシステムの活用（導管と地図情報のデータベース化）
- 導管網の区分化（ブロック化）による被害の最小化
- 保安指令システムの活用（保安出動の迅速化と保安情報の整理）



都市ガス原料 (LNG: 液化天然ガス) の安定調達 原料資材部 佐野 智



都市ガス原料であるLNGの調達業務を担当しています。
 広島ガスのLNG契約は売主との直接契約で、調達先は従来、インドネシアとマレーシアでしたが、2009年4月から、新たにロシアのサハリンIIプロジェクトが加わりました。
 サハリンIIは、ロシア初のLNGプロジェクトで、当社においても初のFOB(積地渡し)長期契約という事もあり、2004年3月の交渉開始から2006年4月の売買契約調印に至るまでに2年を要しました。その間、幾度となく開催された交渉の場で、懸命に契約条件の詰めを行いました。
 さらに、契約締結後、ロシア側のLNG出荷設備の建設や、契約および荷役実務の詳細を詰めていく中、2009年4月の初出荷までには、さらに3年を要しました。
 このように、LNGを新たに調達するためには、膨大な時間と労力が必要となりますが、都市ガス原料を輸入に依存せざるを得ない我が国では、調達先の多様化を図る事により、お客さまへの供給安定性が一層向上するとの認識の下、今後も引き続き、原料の安定調達に努めていきます。



LNG (液化天然ガス) の受入作業 廿日市工場 角野 基昭



廿日市工場において、設備の保守・修理と都市ガス原料であるLNGの受入業務を担当しています。
 LNGは超低温(マイナス162度)のため、工場側の受入用配管を徐々に時間を掛けて冷却した後、LNG貯槽(受入タンク)に受入を行います。作業時間は、通常午後から翌朝未明までを要し、かつ、船上・橋橋での作業となることから、真冬や真夏は体力的に相当厳しい条件となります。
 また、LNG船の運航スケジュールも決まっていますので、翌朝までには必ず受入業務を完了する必要があります。そのため、受入用設備を含む工場全体の設備が問題なく機能するよう日常点検や定期整備を実施するとともに、万が一の設備トラブルに備えて、各設備の機能や特徴を熟知し、早期の復旧対応が可能となるよう心掛けています。
 海外から運ばれてきたLNGを、まずは安全・確実に受け入れ、ガスの製造段階にしっかりとつなげるべく全力を尽くしています。

都市ガス製造工場のオペレーション・安全対策 廿日市工場 田中 慎一郎



都市ガスの製造オペレーション業務を担当しています。廿日市工場は、広島ガスの主力工場で24時間365日操業しています。
 そのため、我々オペレーターは、昼夜・土日祝日を問わず3交代で勤務し、日常からの設備の運転・監視はもちろん、事故防止のためのパトロールやガス漏れ点検を行い、異常などの早期の発見および対処を心掛けています。同時に、自然災害を含めたさまざまなトラブルを想定した緊急措置訓練を繰り返し実施するなど、有事に備えた対策もとっています。
 また、地球規模での取り組みが求められる環境面についても、安全運転・安定供給を大前提に、省エネルギー・省CO₂という視点に配慮した運転を心掛けています。
 2008年4月に廿日市工場へ配属される前は、天然ガス転換作業などの日勤業務に従事しており、当初は、3交代勤務の生活スタイルへの適応に気を配る面もありましたが、現在では、お客さまに安心してお使いただくガスを製造するという高い使命感と誇りを持って業務に取り組んでいます。



ガス導管の保安対策 供給部 檜山 昌幸



広島ガスでは、万が一のガス漏えいおよび導管事故等に備え、24時間365日の緊急出動体制を整備しています。
 災害への緊急対応レベルの向上を目的とした教育、主要幹線の他工事破損事故を想定した緊急措置訓練や、行政主催の各種防災訓練にも積極的に参加しています。
 他工事(下水、水道、電気、電話等)管理においては、主要幹線4路線を選定し、毎日午前中に路線巡回を行い、未照会・未連絡工事等の早期把握や、自然災害による道路陥没等の早期発見を行うなど、事故の未然防止に努めています。立会では他工事会社より要請があれば夜間でも立会を行い、ガス管位置や防護措置の指示を行います。また、他工事企業者で実施している保安講習会へも積極的に参加し、破損防止のPRを行っています。
 今後も、お客さまに満足していただき、ご迷惑をおかけしないよう、ガスの「安定供給」と「保安の確保」という任務を全うしていきます。

お客さまとの関わり 都市ガスを安心して安全に、そして満足してご利用いただけるよう、



お客さま

充実したお客さまサービスや安全確保とともに
最新ガス機器による快適なガスライフを提案しています。

法定保安巡回

技能者の養成
(ガス機器修理)

安全対策の周知活動
(換気)

ガストピアセンター

- 安全設備・機器の普及促進
- 定期的なお客さま宅での法定保安点検の実施
(ガス漏れ検査、給排気調査)
- ガス機器・設備の使用方法・安全対策等の周知
- 保安センターの設置
(ガス漏れ・供給支障の24時間受付)
- コールセンター・お客さま相談窓口の設置
- 社内資格制度による工事・点検等の技能者の養成および教育の実施
- 新CISの構築
(お客さま接点業務の一元管理、お客さまの声の記録・蓄積・活用)
- 広島ガスグループ従業員を対象としたCSマインドアップ研修の実施
- ショールーム等における最新ガス機器のご提案

災害発生時等緊急時の保安対策

万全の緊急措置体制により、災害発生時等でも
エネルギーの安定供給と保安の確保に努めてまいります。

当社では、日頃から地震・火災・台風・洪水等の緊急事態に備えて体制を整備し、被害の未然防止にむけ、さまざまな安全対策を講じています。

被害が発生した場合、または被害の発生が予想される場合は、関連情報（工場、導管、お客さま、気象等の状況）の早期収集に努め、必要に応じ警戒体制、または社長を本部長とした対策本部を設置します。

万一被害が発生した場合でも、関係各所と連絡・連携を取りながら、被害の拡大や二次災害の防止のための措置※を行い、可能な限り早期の復旧をめざして対応していきます。

被害や対応の状況は、行政等の関係機関、報道機関に対しても適宜発信します。

※被害が大きい区域は、ガスの供給を停止することがあります。

なお、新型インフルエンザ対策についても行動計画に則り、適切に対応していきます。

＝ 広島ガスにおける対策(例) HP ＝

- マイコンメーターの設置
(ガス漏れや地震を感知してガスを自動的に遮断)
- 行政や業界の基準に対応した耐震設計
(製造設備・供給設備等)
- 耐震性の高い導管設備の導入
(ポリエチレン管、融着継手、メカニカル継手等)
- 導管網の区分化(ブロック化)による被害の最小化

- 緊急措置要領の見直し、拡充
- 災害対策システムの構築・運用
(安否確認・出勤要請・被害想定等)
- 社員教育、地震訓練の実施 等
- 新型インフルエンザ対策行動計画の見直し、事業継続計画の策定

省消費

快適なガスライフのお届けと地球温暖化対策への貢献に向けて
(家庭用燃料電池の普及拡大を目指して)

家庭用エネルギー営業部 植野 博之



当社ショールーム「ガストピアセンター」において、家庭用ガス機器の提案業務を行っています。

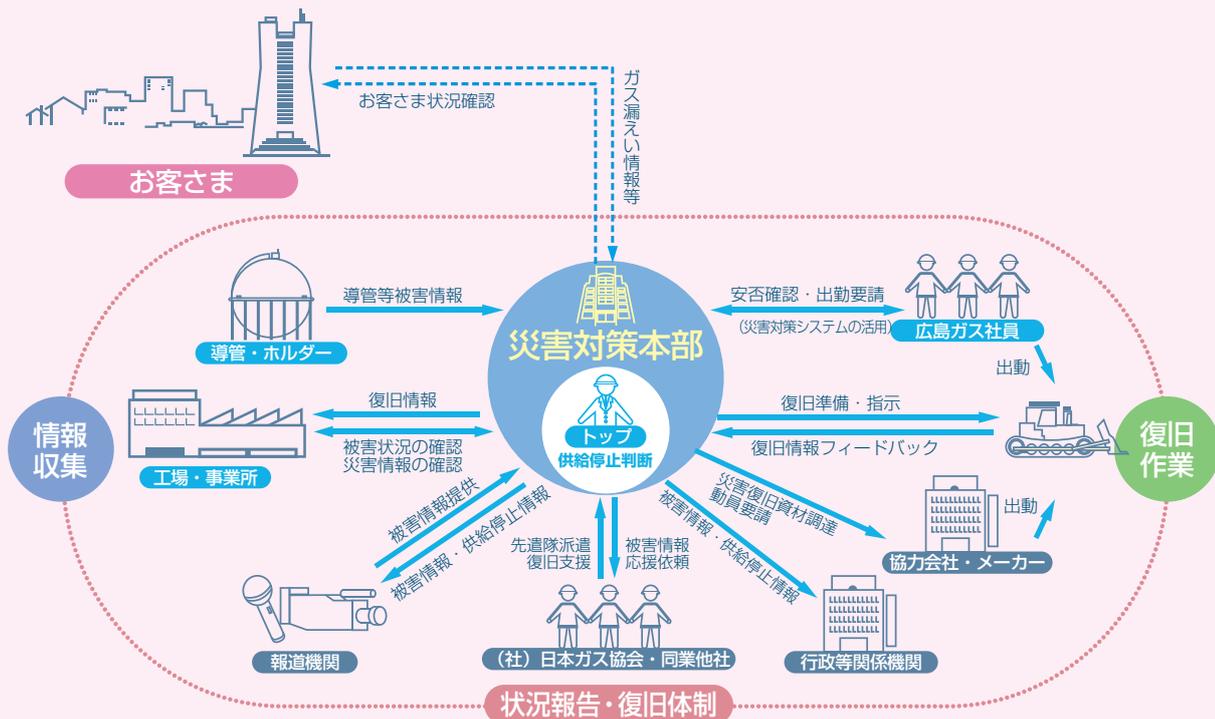
「ガストピアセンター」では、Siセンサーコンロの展示や床暖房・浴室暖房乾燥機等の体感コーナーを設置し、ガス機器に関する快適性・安全性・省エネ性・環境性について、お客さまに実際の体感を通じてご理解いただけるよう努めています。

また、2009年8月には、家庭用燃料電池「エネファーム」の販売開始にあわせて、実際に「エネファーム」を展示し、その先進性や優れた省エネ性・環境性をお客さまに体感していただけるよう、ショールームを一部改装しました。

お客さまと接する際には、当社からの情報の一方通行になるのではなく、お話をよく伺って、ご要望に沿った提案ができるよう心がけています。

今後も、お客さまとの「対話」を通じて、ガス機器による快適な生活をお届けするとともに、省エネ性・環境性に優れた機器の普及拡大により、家庭部門での温暖化対策に貢献できるよう努めていきます。

●災害対策時の情報伝達概念図



地域社会との関わり(芸術・文化、地域、スポーツ振興)

広島ガスは、企業市民として、様々な社会貢献活動を実施しています。活動に当たっては、「芸術・文化振興」「地域振興」「スポーツ振興」「教育支援(P49～50)」の4分野を軸に展開しています。



◆ 芸術・文化、地域振興

「第22回広響ホットコンサート」を開催

お客さま、地域の皆さまに日ごろの感謝の気持ちを込めて

中・四国唯一のプロオーケストラである「広島交響楽団(広響)」。その広響のサポートと地域に貢献させていただくことを目的に、広響ホットコンサートを開催しています。

22回目となる2008年度は、9月に広島厚生年金会館にて、「ロマンティック露西亜 煌めく色彩、永遠の旋律」と題し、チェリストの遠藤真理氏、指揮者に飯森範親氏を迎え、公募で招待の1,200人を含む約1,650人のお客さまに色彩豊かなロシア音楽を堪能いただきました。



コンサートステージ



演奏の様子

「創立100周年記念広響ミニコンサート」を開催

広響ミニコンサート

当社創立100周年記念のプレ感謝イベントとして、2008年度の2月から3月にかけて、広響によるミニコンサートを開催しました。当社の供給エリアである呉市・三原市・尾道市の3会場で実施し、約2,200人のお客さまに春の爽やかな演奏を堪能いただきました。



ミニコンサートステージ



会場の様子

ひろしまフラワーフェスティバルへの参加・神楽フェスティバルへの特別協賛

地域の皆さまとともに、地元の活性化にむけて

毎年5月3日～5日に開催され、全国でも有数の来場者数(2009年度:約161万人)を誇るひろしまフラワーフェスティバルに参加しています。

2008年度は、市民の皆さまにゆっくりとお過ごしいただける憩いのスペースを提供するとともに、2006年、2007年と好評だった「夜神楽」を一新した「神楽フェスティバルー3県共演でガス」に特別協賛。地域の文化活動の支援も行っています。

また、環境保全の観点から、JT(日本たばこ産業(株))が主催する清掃活動にも参加、他の企業とも協力してきれいな街づくりにも貢献させていただきました。



憩いのスペース GASLAND



神楽フェスティバル 3県共演でガス



JT清掃活動への参加

◆ スポーツ振興

広島ガスバドミントン部における地域のスポーツ振興に向けた活動

バドミントン講習会の実施

広島ガスバドミントン部は、広島県内の小学校等を訪問し、バドミントンの講習会を開催、地域の子どもたちにバドミントンやスポーツの楽しさをお伝えしています。

2008年度は、約1,500人が講習会に参加しました。



講習会

地域の各種イベントへの参加

また同部は、「トップスひろしま*」の一員として、地域のさまざまなイベントにも参加しています。

イベント参加の際には、トップスひろしまのPR（トップス全チームのグッズ展示やサイン会）に努めるとともに、例えばひろしまフラワーフェスティバルにおいては、主要イベントであるパレードへの参加も行う等、イベント全体の盛り上がりにも一役買えるよう取り組んでいます。



ひろしまフラワーフェスティバル参加のトップスひろしまメンバー

広島ガスバドミントン部

1995年3月に創部の実業団チーム。現在、日本リーグ二部に所属（2009年9月末時点）。

また、同部は、広島のプロスポーツクラブが所属する「トップスひろしま」に加盟。地域のスポーツ振興にむけた活動にも取り組んでいる。

*トップスひろしま

広島のプロスポーツクラブが加入し、広島の発展にむけて活動する組織。プロ野球「広島東洋カープ」やサッカーJリーグ「サンフレッチェ広島」、バレーボールリーグ「JTサンダース」等もメンバーで、競技の枠をこえ、「オール広島 オール・スポーツ」の実現にむけてさまざまな活動を展開している（2009年9月末時点）。



「広島東洋カープ合同応援」の実施

がんばれカープ! 地元4社で合同応援

広島活性化をめざし、2004年度より当社と中国電力(株)で、地元のプロ野球球団である広島東洋カープの合同応援を開始しました。2005年度からは(株)広島銀行が、2006年度からは(株)中電工が加わり、現在は4社で実施しています。

2008年度は、7月と9月の2試合（対阪神戦、巨人戦）で実施、4社の合計で約2,000人の役職員とその家族が、ラストイヤーとなる広島市民球場に集い、4社合同で用意した応援グッズを手に熱い声援を送りました。



カープ合同応援

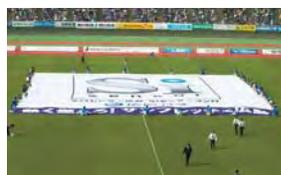
サンフレッチェ広島「広島ガススポンサードゲーム」を開催

Go! サンフレッチェ!! 勝利にむけて

Jリーグ「サンフレッチェ広島」をサポートし、地域の活力アップにつながるようとの願いを込め、「広島ガス スポンサードゲーム」を開催しています。

2008年度は10月に広島ビックアリーナでの湘南ベルマーレ戦で実施、約100人の役職員が集結し、約12,000人のサポーターとともに熱い声援を送りました。

さらに、ハーフタイムでは、SiセンサーコンロのCMを放映するとともに、SiセンサーコンロをPRした大型応援旗をグラウンドに広げる等、さまざまな演出でゲームを盛り上げ、サンフレッチェの勝利にむけたメッセージを発信しました。



ハーフタイム時のSiセンサーコンロ大型応援旗



広島ガススポンサードゲーム

地域社会との関わり (次世代教育への取り組み)

広島ガスでは、地域にエネルギーを供給する事業者として、エネルギー・環境関連を中心に行政、教育委員会、学校、業界等と連携し、次世代教育に積極的に取り組んでいます。



当社の取り組みが、将来を担う世代の育成に寄与し、地域社会等の発展・活性化につながればと考えています。

出前授業によるサイエンスショーの実施 (小中学生・イベント等)

理科や科学の楽しさについて、実験を通じて分かりやすく紹介する「サイエンスショー」を出前授業形式で展開し、県内の小中学校を年間30校程度訪問しています。冷熱実験や燃焼実験に加え、天然ガスの特性や環境の大切さ等もお伝えしており、理科のみでなく総合学習講座としてもご活用いただいています。なお、サイエンスショーは、小中学校に加え、県や市の公的な施設・イベント等でも実施しています。

■ 主な実施場所

学校	公的施設	イベント等
・ 県内の小中学校 (年間30校程度)	・ 広島市こども文化科学館 ・ 広島市交通科学館 ・ 呉市海事歴史科学館 (大和ミュージアム) ・ 県内の公民館 等	・ ひろしま温暖化ストップ!フェア ・ 環境の日ひろしま大会 ・ 青少年のための科学の祭典 ・ 福山ガス・ガス展 等



小学校での出前授業

スーパーサイエンスミュージアム (SSM) の実施 (小学生)

広島県内の教育関係者、広島市こども文化科学館、広島ガスで実行委員会を立ち上げ、理科・科学好き小学生の育成をめざし、2003年度から実施しています。対象は小学校5～6年生の選抜メンバーで、年間20回程度の学習指導要領にとらわれない高度な理科講座を展開、地元企業のマツダ(株)にもご協力いただき、企業プログラムも取り入れています。

なお、SSMは2003年度に(財)社会経済生産性本部エネルギー環境教育情報センター主催のエネルギー広報活動表彰制度における「エネルギー環境教育情報センター運営委員長奨励賞」を受賞しています。

■ SSMの主な講座内容

- 遺伝子組み換え
- DNAの構造
- 豚の眼球解剖
- 宿泊研修 (海洋生物を探索)
- ミニジェットコースターの製作
- ミニロケットの製作
- 身近な放射線
- 養老孟司先生講演会
- 化学変化と熱の出入り
- 地層と化石
- 宇宙と天体
- 災害から身を守る
- 自動車の科学 (マツダ(株))



宿泊研修



実験風景

参加者の声

SSMを受講して



保護者 烏田 裕之さん

生き物や化学実験が好きな娘が毎回目を輝かせて、受講を楽しみにしています。講座では、高校、大学で学ぶ内容を小学生でもわかりやすいように先生方が工夫されており、いつも新しい発見があります。親子で参加なので、家に帰ってから学んだことについて意見を言い合ったり、疑問に感じたことを図書館に行って調べ物をしたりする機会も増えました。この講座を通じて、娘は身の回りで起こる些細な出来事にも「なぜ?」と敏感に感じ、まずは自分で考えてみるようになりました。このような機会を与えてくださった事に本当に感謝しています。我が家の感動を、多くの方々が体験できるよう、これからも本講座を続けていっていただけたらと思います。

受講者 烏田 裕香さん

私が一番興味を持ち楽しかった講座はブタの眼球解剖です。目のレンズは見るものによって厚さが変わることを知り、また実際に眼球のレンズを紙の上に置くと、ものが大きく見えました。SSMは、学校では勉強できないことや実験ができ、指導講師の先生もやさしく教えてくれてとても楽しいです。この経験を生かして将来は小学校の教師になりたいと思っています。



「エネルギー環境教育情報センター運営委員長奨励賞」受賞

理科教育プロジェクトへの参画 (小中学生)

当社技術研究所では、経済産業省の理科教育事業2件に参画しています。当事業は、企業のエンジニアや研究員が、実社会との結びつきを重視した理科授業プログラムの開発と授業を行い、若年層への理科教育を一層充実させようというものです。

2008年度は、広島市内の小・中学校6クラスを訪問し、①燃焼の仕組み、②換気的重要性、③ガス事業および器具の安全対策、④冷熱実験、⑤燃料電池の仕組み等、当社の事業と関わりのある内容について、実験も交えながら授業を行いました。



興味深く実験に取り組む児童

「夢・化学21」への出展 (高校生)

当社技術研究所は、2008年8月、高校生向けの啓発キャンペーン事業「夢・化学21」に出展しました。当事業は、若年層への先端素材・技術等の紹介を通じ、化学技術や関連製品への理解の増大を目的とした産学官連携イベントで、2日間で約300名の見学者が訪れました。

当社ブースでは、①天然ガスの環境優位性、②小型燃料電池模型による発電実験、③家庭用コージェネレーションシステム等を紹介しました。特に、都市ガスから化学的に水素を抽出し、発電と熱回収を高効率で行う燃料電池システムは好評で、期待の大きさがうかがえました。



熱心に展示物に見入る生徒

総合学習の支援 (中学生)

2005年9月から中学生を対象に、1年半(2学年後半～3学年卒業)の長期間にわたり総合学習の支援を行っています。

いくつかの総合学習コースのうち、当社では環境コースと国際交流インドネシアコースを担当しています。

広島大学附属東雲中学校と長期間にわたり総合学習を共同で実施し、企業と学校での新たな総合学習のモデルを共同研究しています。なお、活動概要や成果は、中学校教育研究会等で共同発表しています。

環境コース

- 東雲中の環境改善活動を指導
- 工場見学、環境授業、エコ・クッキング

国際交流インドネシアコース

- インドネシア語講座
- インドネシア料理教室
- インドネシア民族楽器教室

教育委員会民間企業派遣研修の受け入れ

教育委員会の民間企業研修として、県内の先生方を受け入れています。

「社会構成員としての視野の拡大」等教育委員会の研修目的にマッチするよう、6カ月にわたり各職場にご配属。今後の教育活動の参考となるよう、当社における企業人としてのあり方や、都市ガスの安定供給・保安の確保等のガス事業の特性をお伝えしています。

参加者の声

民間企業研修を受けて 廿日市市立玖島小学校 小寺 和徳先生

研修では、民間企業の組織マネジメントや、多岐にわたる仕事の実際を学ばせていただきました。一口にガスといってもこれほどたくさんの業務があるとは驚きでした。毎日がとても新鮮で、有意義に過ごすことができました。

研修初日は「ガスは怖い」というイメージからのスタートでしたが、研修が進むにつれて、天然ガスはクリーンなエネルギーであること、ガス器具も進化し安全で機能的であること等、ガスの知識もずいぶん深まり、今では同僚にガスのよさをPRしています。

この貴重な経験を学校現場に戻って仕事に生かすとともに、ガスのよさを子どもたちにも話していきたいと思っています。



インターンシップの受け入れ (大学生)

広島ガスでは2000年度からインターンシップの受け入れを開始。2008年度は広島県内の大学生3名が、希望により各部署に配属され、ガス事業における製造業務や営業業務、広報誌の編集等の実務を体験されました。

参加者の声

インターンシップを体験して

5日という短い間でしたが、大変濃い体験をすることができました。実際に働いている社員の方と一緒に現場をまわるなど、現場の厳しさ、そしてやりがいを感じることができ、大変貴重な体験をさせていただきました。インターンシップを通して、みなそれぞれボンヤリとしていた将来の姿が形あるものになってきたのではないかと思います。

お忙しい中、今回のインターンシップのためにさまざまな業務に同行させていただき本当にありがとうございました。

広島市立大学 山下 葉子さん
広島市立大学 岡本 浩二さん
安田女子大学 寺山 陽子さん



従業員との関わり

企業が発展していくためには、従業員の「力(ちから)」が不可欠です。従業員にとって、やりがい・働きがいがあり、働きやすい、そんな職場環境づくりをめざしています。



雇用

地域社会に貢献できる人材を確保するため、自己成長をめざす自立型の人材を求めています。採用にあたっては、男女雇用機会均等法を順守して男女間に格差が生じないよう公正な選考を行うほか、障害者の雇用や定年退職後の継続雇用にも取り組んでいます。

■雇用状況の推移

区分	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度
期末要員数(人)	692	679	660	651	639
平均年齢(歳)	38.5	39.3	39.8	40.6	41.4
平均勤続年数(年)	16.3	17.3	17.8	18.5	18.9
新卒正社員採用数(人)	5	0	8	0	10
障害者雇用数(人)	11	13	12	11	12

人事制度

中期経営計画を達成するためには、全従業員が諸課題に対して果敢にチャレンジし、「活力ある組織づくり」を実現していく必要があります。また、経営を支える支柱は「人材(人財)」であり、会社が発展していくためには従業員一人ひとりの成長が必要であり、そのためには「やりがい・働きがい」の向上につながる仕組みづくりが重要です。

当社では、従業員一人ひとりの能力を伸ばし、さらに個人が発揮した能力や役割遂行、課題業務の達成度を公平・公正に評価し、適正に処遇へ反映させる人事制度を構築・運用しています。能力や成果を評価する評定者に対しては、毎年集合研修・評定者訓練を実施しています。

また、従業員の育成や自己啓発を支援するさまざまな研修コースを充実させ、従業員のチャレンジを支援しており、その成果を持ち点として登録し、人事制度ともリンクさせています。

■人事処遇制度の概念図



■研修体系図(例)

	新入社員	管理職能
階層別研修 (役割認識とマネジメント力強化)	新入社員研修	ジュニアリーダー研修 マネジメントマインド研修 新任管理職研修 管理職(M1)研修
キャリア開発研修(CDP) (生涯の仕事生活を通じた成長と能力開発)	CDP1 (入社半年後) CDP3 (入社3年目研修)	CDP8 (入社8年目研修) CDP40 (40歳時研修) CDP50 (50歳時研修)
チャレンジ研修 (テーマ別のスキルアップ)	〈理解判断力〉〈創意工夫力〉〈コミュニケーション力〉〈問題解決力〉〈企画力〉〈折衝・調整力〉 〈指導力〉〈決断力〉各能力別コース	
社内研修 (社内資格研修等)	〈ガス基本スキル〉 〈ビジネス基本スキル〉	〈ガス専門スキル研修(各種資格研修)〉 〈技能向上研修〉 〈オーダーメイド研修〉
社外セミナー派遣 (職務別のスキルアップ等)	各種部門内研修 各種社外講演会 異業種交流セミナー	
人間性を磨く	人権学習会・マナー講演会・マネジメント講演会	
国内外留学	国内留学	海外留学
自己啓発支援	通信講座受講支援 資格取得支援	

女性人材の積極的な活用

女性の能力の活用が企業の発展に欠かせないものであるという認識が広がるなか、当社においても、事業や業種の特性上これまでは男性主体になりがちだった職場環境や社員の意識を改革し、女性の職域拡大や、女性が働きやすく、そして能力を発揮できる職場づくりを推進してきました。そうした取り組みは社内のみならずお客さまや派遣先企業にも高く評価され、事業の成果にもつながっています。

■ 主な取り組み（例）

- 従来の男性主体の職域に女性社員を配置し、
職域を拡大
- 女性の主任、係長、管理職の積極的登用を促進

■ 主任以上の女性数の推移（管理職能・指導職能）

区分	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度
主任以上（人）	31	35	36	41

ワークライフ・バランスへの取り組み

育児・介護休職制度、育児短時間勤務制度

社員の活躍を支援する仕組みのひとつとして「育児・介護休職制度」の利用を促すとともに、2009年より「育児短時間勤務制度」を導入し、働きやすい職場環境づくりを推進しています。これは女性だけでなく、男性の働き方や育児・介護参加の視点を含めた取り組みであり、社会的責任を果たす上でも大変重要であると考えています。

■ 育児・介護休職制度等の利用者の推移

区分	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度
育児休職制度利用者（人）	3	2	2	2
育児休職制度利用者の復職率（%）	100	100	100	100

社員の声

育児短時間勤務制度を利用して

廿日市工場 米田 由弥



2009年3月まで約1年間育児休職制度を利用し、4月から職場に復帰しました。その際、育児短時間勤務制度が導入されたことを知りました。新しい制度なので不安や迷いもありましたが、職場の方からのアドバイスや後押しもあり、利用することを決意しました。現在、通常の就業時間より1時間早く退社し、保育園に預けている子どもを早く迎えに行くことが可能になりました。この制度は、一人ひとりのニーズや生活リズムに沿って勤務時間の短縮ができるのでとても助かっています。また、家族の理解や協力、何より職場のメンバーのサポートのおかげで、安心して子育てとの両立を行うことができています。

次世代育成支援認定マーク「くるみん」取得

仕事と生活の両立を支援するとともに、地域の次世代育成支援対策に貢献するための行動計画を策定し実施しています。その実施結果が「次世代育成支援対策に取り組んでいる企業」として認められ、2009年8月、厚生労働大臣より次世代育成支援対策推進法に基づく認定マーク「くるみん」を取得することができました。（広島県で8番目に認定）



ボランティア休暇制度

社員のボランティア活動を支援するため、環境保全活動、地域社会貢献活動、社会福祉活動等に参加する社員が取得できる「ボランティア休暇制度」を導入しています。

人権

従業員の人権を尊重し、人権への正しい理解と認識を社内に広めるため「広がす人権宣言」を制定するとともに誰もが働きやすく能力発揮できる職場をめざし、「快適な職場の条件10か条」を定めています。

また、社長を委員長とする「人権啓発推進委員会」を中心に、全社員を対象に人権学習会や人権講習会を開催する等、積極的に啓発活動を進めています。

さらに、グループ会社とともに広島同企連（「同和問題の解決をめざす広島企業連絡会」の略称）に加入し、地元企業と連携した人権活動にも取り組んでいます。

安全衛生・健康管理

労働安全衛生関係諸法規の順守はもちろん、「安全衛生管理規程」を制定し、安全衛生管理組織のもとで労働災害の防止と従業員の安全・健康管理の確保、快適な職場環境づくりを行っています。

健康管理面では、当社独自の「健康管理規程」に従い、定期健康診断では産業医の指示のもと、法定検査項目以外の検診も実施するとともに、個別カウンセリングを行っています。また、メンタルヘルスについては、社外のカウンセリング機関と連携、さまざまな情報の提供や管理職への講習会を実施する等、十分配慮しています。

情報発信・コミュニケーション

企業の社会的責任を全うするうえで、情報開示は基本的かつ重要な課題です。当社は、本誌やホームページ、各種法定書類等を通じてIRや環境保全に関する情報を適宜発信しているほか、お客さまや地域の消費者団体の皆さまとの交流にも意欲的に取り組んでいます。



さらに、プレスリリース、グループ広報誌、会社案内、各種パンフレット等を作成して必要な情報をタイムリーに発信しています。

CSR報告書「We do!」・会社案内 HP

「We do!」は、当社の現況を経営・環境・社会の3つの視点からご報告する年次レポートです。1年間の主な取り組みとその成果についてご報告するだけでなく、将来の経営戦略や事業計画・IR情報等についても詳細にご紹介し、より多くの皆さまに当社の事業活動を理解していただけるよう、内容の充実に努めています。

また、一般のお客さま向けには会社案内を発行、イラストや写真を多く用いて広島ガスの事業活動をより分かりやすく紹介しています。



「We do! 2009」



COMPANY PROFILE

各種IR情報ツール HP

年4回、有価証券報告書等を発行しているほか、株主の皆さま向けの報告書を発行する等、適宜、当社の活動内容や財務状況の全容を明らかにしています。なお、当社のホームページにおいても各種IR情報をご覧いただけます。



第155期報告書



広島ガスホームページ「IR情報」



プレスリリース



決算短信

グループ広報誌

広島ガスグループ社員が経営重要事項をしっかりと情報共有し、グループ全体の価値向上・リスク管理を行うことを目的に、年7回発行しています。グループ会社の従業員に加え、同業他社(エネルギー関係)、取引先企業、マスコミ関係者、官公庁、県内教育機関、オピニオンリーダー等にも配布。当社グループの状況を社外の皆さまにお伝えするツールとしても活用しています。



グループ広報誌「GAS LAND」

広島ガスホームページ

総合エネルギー供給事業を柱とする当社の経営理念・事業内容を十分にご理解いただき、より多くの皆さまのグッドライフにお役立ていただけるよう、多彩な生活情報・ガス器具やガスの保安に関する情報等を迅速に提供しています。

<http://www.hiroshima-gas.co.jp/>



報道発表

HP

迅速かつタイムリーに情報を発信しています

当社のトピックスや財務状況等の情報は、記者会見、プレスリリース等を適宜実施してマスコミに提供し、ステークホルダーの皆さまにはマスメディアを通じ速やかに伝達されるよう、積極的な情報発信を行っています。

なお、プレスリリース等の資料は、当社のホームページからご覧いただけます。



記者会見の様子



エネファーム披露式典



取材の様子

消費者団体との懇談会

HP

お客さまにガス事業を知っていただくために

当社の事業の取り組みについて地域の皆さまに理解を深めていただくため、(社)広島消費者協会との懇談会を毎年開催しています。懇談会では当社の取り組みをご説明するとともに、当社の施設見学や講演会等を行い、当社の活動状況について幅広くご紹介しています。



(社)広島消費者協会との定例懇談会

料理教室・セミナーの開催

HP

安心で快適なガスライフを発信しています

当社ショールーム・住宅展示場等で開催する料理教室やスーパーでの展示会等を通じて、ガス機器の良さを体感していただくための活動をしています。また、ショールームでは、ガス機器の上手な使い方(省エネ性)、環境性、安全性、快適性をテーマにしたセミナーや料理教室を開催しています。

このようなお客さまとの接点を通じ、安心で快適なガスライフを発信しています。



料理教室

「'08ガス展」の開催

HP

ガスのある快適な暮らしをご提案

2008年度のガス展は、「暮らしに、わたしに、ハートウォーミング。」をコンセプトに、最新ガス機器の展示・販売のほか、Siセンサーコンロや床暖房を体感いただけるコーナーを大幅に増設、11月29日からの2日間で約2万2千人のお客さまにお越しいただきました。クッキングステージには、2007年度に続き、深山社長自らがSiセンサーコンロで調理実演を行う等、お客さまにガスのある快適な暮らしを発信しました。



SiセンサーコンロをPRする深山社長(中央)



床暖房体感コーナー



来場者でにぎわう会場



■表紙デザイン



暮らしの安心も、企業の発展も、地域の繁栄も、みんなこの地球があつてこそ。たった一つしかないのだから、みんなで大切に守っていききたい。そんな想いをシンボリックにデザインいたしました。

地球の青色は、クリーンエネルギーであるガスの炎の色もイメージしています。

広島ガスCSR報告書 2009

発行 2009年9月(次回予定 2010年9月)

広島ガス株式会社 広島市南区皆実町2丁目7-1
企画・編集 / 広島ガス We do! 2009 制作委員会
広報環境室 ☎082-252-3000(直通)



印刷時に有害な廃液が出ない
「水なし印刷」で印刷しています。



みんなで止めよう温暖化

チーム・マイナス6%

広島ガスはチーム・マイナス6%に参加しています。